

白滝遺跡群Ⅻ

第3分冊（本文Ⅲ章・石器実測図・分布図編）

遠軽町 旧白滝5遺跡（2）

旭川紋別自動車道遠軽町遠軽地区埋蔵文化財発掘調査業務報告書

Ⅲ 遺構と遺物

- 2 遺物
- (5) D3b・c区(b区：Sb-40、c区：41～45)の石器
 - (6) F1区(Sb-46～49)の石器
 - (7) F2区(Sb-50～52)の石器
 - (8) F3区(Sb-53～58)の石器

平成25年度

公益財団法人 北海道埋蔵文化財センター

記号等の説明

- 1 接合資料の中で、剥片石器や石核の素材である剥片もしくは原石を分割したものについては「個体A」「個体B」・・と呼称した。
- 2 接合資料は剥離工程を理解し易くするために模式図を作成し、実測図と共に掲載した。模式図は同一段階の剥離群毎にトーンを変え、剥離の流れを番号で示した。但し、切り合い関係がなく、前後関係が明らかでないものにおいても便宜上番号を付けたので、詳細は個々の説明を参照願いたい。
- 3 一部の接合資料実測図においては、視覚的に図を理解し易くするために接合剥片の腹面側をトーンで示した。また、接合資料内に剥片素材の個体が存在する場合、全体の剥離の腹面と区別するために、個体の調整剥片腹面を目の粗いトーンで示した。
- 4 剥離模式図の縮尺は原則 1 : 5 である。模式図中の矢印 (→) は接合剥片の剥離方向を示すが、接合剥片の打点側が欠損している場合は切れた矢印 (→) 、重なって見えない部分は破線の矢印 (---→) で示した。また、折れの場合は加圧部分に ▲ を付けている。
- 5 尖頭器・舟底形石器などの製作石器が欠落した接合資料で、その形状が復元可能な場合は剥離工程模式図に太実線で輪郭線を復元している。
- 6 調査区域図および遺物分布図などの方位記号は平面直角座標の北を、レベルは標高 (単位はm) を示す。
- 7 遺構や石器ブロックについては以下の略号を使用した場合がある。
Sb : 石器ブロック Cb : 炭化木片ブロック
- 8 遺物分布図では以下の記号を用いた。また、母岩別資料の挿入に掲載した母岩情報表と模式図には、括弧内に示した器種略称を用いている。
● : 剥片 (FK) ● : 石刃 (BL) ● : 縦長剥片 (LF) + : 削片 (SP)
✠ : 細石刃 (MB) ✠ : 細石刃核 (MC) ◆ : 舟底形石器 (BT) ▲ : 尖頭器 (PT)
◆ : 両面調整石器 (BF) ▲ : 彫器 (BU) ■ : 搔器 (ES) ◆ : 錐形石器 (DR)
▼ : 二次加工ある剥片 (RF) ▼ : 削器 (SS) ✠ : 石核 (CO) ✠ : 石刃核 (BC)
△ : 石鏃 (AH) □ : 礫石器等 【斧形石器・敲石・砥石・台石・原石・礫が該当】
- 9 遺物分布図の記号横の数字は遺物番号を示している。また、分布図中に示した遺物実測図横の数字は掲載番号である。
- 10 石器ブロック別分布図、母岩別接合資料分布図では、全体の遺物を網かけで示している。
- 11 接合資料の接合分布図では、折れ面接合を全て実線で示した。
- 12 石質は掲載遺物の一覧表に示したが、黒曜石については、以下の五種類に分けて示した (口絵40)。
黒曜石 1 : 黒色 黒曜石 2 : 梨肌 黒曜石 3 : 黒色に茶色が混じる (黒>茶)
黒曜石 4 : 茶色に黒色が混じる (茶>黒)
黒曜石 5 : 黒色に紫色もしくは紫色がかった茶色が混じる (黒>紫・茶)
接合資料の一覧表ではスペースの関係上、上記の黒曜石 1 ~ 5 についてそれぞれを 1 ~ 5 の数字のみで示した。
- 13 黒曜石以外の石質については、実測図番号の下に以下の略号で示した。
安山岩 : An めのう : Ag 碧玉 : Ja 珪岩 : Qu チャート : Ch 粘板岩 : Si
砂岩 : Sa 珪質頁岩 : Si-Sh 泥岩 : Mu

第3分冊（本文Ⅲ章・石器実測・分布図編）目次

Ⅲ 遺構と遺物	1
2 遺物	1
(5) D3b・c区(b区：Sb-40、c区：Sb-41～45)の石器	1
(6) F1区(Sb-46～49)の石器	269
(7) F2区(Sb-50～52)の石器	293
(8) F3区(Sb-53～58)の石器	396

第3分冊(本文Ⅲ章・石器実測・分布図編)挿図目次

Ⅲ章 遺構と遺物	
図Ⅲ-314 D3b・c区 接合資料分布図	2
図Ⅲ-315 D3b区 接合資料分布図	3
図Ⅲ-316 D3c区 接合資料分布図	4
図Ⅲ-317 Sb-40分布状況(平面・断面図)	5
図Ⅲ-318 Sb-40出土遺物の分布(1)	6
図Ⅲ-319 Sb-40出土遺物の分布(2)	7
図Ⅲ-320 Sb-40出土遺物の分布(3)	8
図Ⅲ-321 Sb-40出土遺物の分布(4)	9
図Ⅲ-322 Sb-40出土遺物の分布(5)	10
図Ⅲ-323 Sb-40出土遺物の分布(6)	11
図Ⅲ-324 Sb-40出土遺物の分布(7)	12
図Ⅲ-325 Sb-41分布状況(平面・断面図)	13
図Ⅲ-326 Sb-41出土遺物の分布(1)	14
図Ⅲ-327 Sb-41出土遺物の分布(2)	15
図Ⅲ-328 Sb-41出土遺物の分布(3)	16
図Ⅲ-329 Sb-41出土遺物の分布(4)	17
図Ⅲ-330 Sb-41出土遺物の分布(5)	18
図Ⅲ-331 Sb-41出土遺物の分布(6)	19
図Ⅲ-332 Sb-41出土遺物の分布(7)	20
図Ⅲ-333 Sb-41出土遺物の分布(8)	21
図Ⅲ-334 Sb-42分布状況(平面・断面図)	22
図Ⅲ-335 Sb-42・43分布状況(平面・断面図)	23
図Ⅲ-336 Sb-44分布状況(平面・断面図)	24
図Ⅲ-337 Sb-45分布状況(平面・断面図)	25
図Ⅲ-338 D3b・c区の石器(1) 石鏃・尖頭器	28
図Ⅲ-339 D3b・c区の石器(2) 尖頭器	29
図Ⅲ-340 D3b・c区の石器(3) 尖頭器	30
図Ⅲ-341 D3b・c区の石器(4) 尖頭器	31
図Ⅲ-342 D3b・c区の石器(5) 尖頭器	32
図Ⅲ-343 D3b・c区の石器(6) 尖頭器	33
図Ⅲ-344 D3b・c区の石器(7) 尖頭器	34
図Ⅲ-345 D3b・c区の石器(8) 尖頭器・両面調整石器	35
図Ⅲ-346 D3b・c区の石器(9) 両面調整石器	36
図Ⅲ-347 D3b・c区の石器(10) 舟底形石器	38
図Ⅲ-348 D3b・c区の石器(11) 細石刃・形器	40
図Ⅲ-349 D3b・c区の石器(12) 掻器	41
図Ⅲ-350 D3b・c区の石器(13) 掻器	42
図Ⅲ-351 D3b・c区の石器(14) 掻器	43
図Ⅲ-352 D3b・c区の石器(15) 掻器	44
図Ⅲ-353 D3b・c区の石器(16) 削器	46
図Ⅲ-354 D3b・c区の石器(17) 削器	47
図Ⅲ-355 D3b・c区の石器(18) 削器	48
図Ⅲ-356 D3b・c区の石器(19) 削器	49
図Ⅲ-357 D3b・c区の石器(20) 鎌形石器・二次加工ある剥片・石刃	50
図Ⅲ-358 D3b・c区の石器(21) 石刃	52
図Ⅲ-359 D3b・c区の石器(22) 石刃	53
図Ⅲ-360 D3b・c区の石器(23) 石刃	54
図Ⅲ-361 D3b・c区の石器(24) 石刃	55
図Ⅲ-362 D3b・c区の石器(25) 石刃	56
図Ⅲ-363 D3b・c区の石器(26) 石刃	57
図Ⅲ-364 D3b・c区の石器(27) 石刃・石刃核	58
図Ⅲ-365 D3b・c区の石器(28) 石刃核	60
図Ⅲ-366 D3b・c区の石器(29) 石刃核	61
図Ⅲ-367 D3b・c区の石器(30) 石刃核	62
図Ⅲ-368 D3b・c区の石器(31) 石刃核	63
図Ⅲ-369 D3b・c区の石器(32) 石刃核・石核	64
図Ⅲ-370 D3b・c区の石器(33) 石核	65
図Ⅲ-371 D3b区の石器(1) 母岩583 接合2399-2401(1)	67
図Ⅲ-372 D3b区の石器(2) 母岩583 接合2399-2401(2)	68
図Ⅲ-373 D3b区の石器(3) 母岩583 接合2399-2401(3)	69
図Ⅲ-374 D3b区の石器(4) 母岩584 接合2408(1)	71
図Ⅲ-375 D3b区の石器(5) 母岩584 接合2408(2)	72
図Ⅲ-376 D3b区の石器(6) 母岩584 接合2408(3)	73
図Ⅲ-377 D3b区の石器(7) 母岩584 接合2408(4)	74
図Ⅲ-378 D3b区の石器(8) 母岩584 接合2408(5)	75
図Ⅲ-379 D3b区の石器(9) 母岩601 接合2447(1)	77
図Ⅲ-380 D3b区の石器(10) 母岩601 接合2447(2)、母岩656 接合2814・2816(1)	78
図Ⅲ-381 D3b区の石器(11) 母岩656 接合2814・2816(2)	80
図Ⅲ-382 D3b区の石器(12) 母岩656 接合2814・2816(3)	81
図Ⅲ-383 D3b区の石器(13) 母岩656 接合2814・2816(4)	82
図Ⅲ-384 D3b区の石器(14) 母岩639 接合2592(1)	84
図Ⅲ-385 D3b区の石器(15) 母岩639 接合2592(2)	85
図Ⅲ-386 D3b区の石器(16) 母岩639 接合2592(3)	86
図Ⅲ-387 D3b区の石器(17) 母岩639 接合2592(4)、母岩587 接合2419(1)	87
図Ⅲ-388 D3b区の石器(18) 母岩587 接合2419(2)	88
図Ⅲ-389 D3b区の石器(19) 母岩603 接合2461	89
図Ⅲ-390 D3b区の石器(20) 母岩605 接合2471	90

図Ⅲ-444	D3c区の石器(13)	母岩681	接合2927(2)	157	図Ⅲ-471	D3c区の石器(40)	母岩758	接合3234(1)	190
図Ⅲ-445	D3c区の石器(14)	母岩681	接合2927(3)	158	図Ⅲ-472	D3c区の石器(41)	母岩758	接合3234(2)	191
図Ⅲ-446	D3c区の石器(15)	母岩681	接合2927(4)、	159	図Ⅲ-473	D3c区の石器(42)	母岩664	接合2901	192
図Ⅲ-447	D3c区の石器(16)	母岩751	接合3211(1)	160	図Ⅲ-474	D3c区の石器(43)	母岩669	接合2910	194
図Ⅲ-448	D3c区の石器(17)	母岩682	接合2928(1)	162	図Ⅲ-475	D3c区の石器(44)	母岩670	接合2911	195
図Ⅲ-449	D3c区の石器(18)	母岩682	接合2928(2)	163	図Ⅲ-476	D3c区の石器(45)	母岩671	接合2912	196
図Ⅲ-450	D3c区の石器(19)	母岩688	接合2935(1)	165	図Ⅲ-477	D3c区の石器(46)	母岩673	接合2915	198
図Ⅲ-451	D3c区の石器(20)	母岩688	接合2935(2)	166	図Ⅲ-478	D3c区の石器(47)	母岩676	接合2920(1)	199
図Ⅲ-452	D3c区の石器(21)	母岩688	接合2935(3)	167	図Ⅲ-479	D3c区の石器(48)	母岩676	接合2920(2)、	200
図Ⅲ-453	D3c区の石器(22)	母岩688	接合2935(4)	168	図Ⅲ-480	D3c区の石器(49)	母岩677	接合2922(1)	202
図Ⅲ-454	D3c区の石器(23)	母岩688	接合2935(5)	169	図Ⅲ-481	D3c区の石器(50)	母岩683	接合2929	203
図Ⅲ-455	D3c区の石器(24)	母岩692	接合2943(1)	170	図Ⅲ-482	D3c区の石器(51)	母岩687	接合2934(1)	204
図Ⅲ-456	D3c区の石器(25)	母岩692	接合2943(2)	172	図Ⅲ-483	D3c区の石器(52)	母岩687	接合2934(2)	205
図Ⅲ-457	D3c区の石器(26)	母岩692	接合2943(3)	173	図Ⅲ-484	D3c区の石器(53)	母岩748	接合3207	207
図Ⅲ-458	D3c区の石器(27)	母岩692	接合2943(4)、	174	図Ⅲ-485	D3c区の石器(54)	母岩721	接合3055(1)	208
図Ⅲ-459	D3c区の石器(28)	母岩724	接合3081(1)	175	図Ⅲ-486	D3c区の石器(55)	母岩721	接合3055(2)	209
図Ⅲ-460	D3c区の石器(29)	母岩724	接合3081(2)	176	図Ⅲ-487	D3c区の石器(56)	母岩710	接合2987(1)	210
図Ⅲ-461	D3c区の石器(30)	母岩724	接合3081(3)	176	図Ⅲ-488	D3c区の石器(57)	母岩710	接合2987(2)	211
図Ⅲ-462	D3c区の石器(31)	母岩726	接合3089(1)	178	図Ⅲ-489	D3c区の石器(58)	母岩710	接合2987(3)	212
図Ⅲ-463	D3c区の石器(32)	母岩726	接合3089(2)	179	図Ⅲ-490	D3c区の石器(59)	母岩710	接合2987(4)	213
図Ⅲ-464	D3c区の石器(33)	母岩726	接合3089(3)	180	図Ⅲ-491	D3c区の石器(60)	母岩723	接合3076(1)	215
図Ⅲ-465	D3c区の石器(34)	母岩750	接合3210(1)	181	図Ⅲ-492	D3c区の石器(61)	母岩723	接合3076(2)	216
図Ⅲ-466	D3c区の石器(35)	母岩750	接合3210(2)	182	図Ⅲ-493	D3c区の石器(62)	母岩723	接合3076(3)	217
図Ⅲ-467	D3c区の石器(36)	母岩753	接合3222(1)	184	図Ⅲ-494	D3c区の石器(63)	母岩727	接合3090(1)	218
図Ⅲ-468	D3c区の石器(37)	母岩753	接合3222(2)	185	図Ⅲ-495	D3c区の石器(64)	母岩727	接合3090(2)	219
図Ⅲ-469	D3c区の石器(38)	母岩757	接合3223(1)、	186	図Ⅲ-496	D3c区の石器(65)	母岩727	接合3090(3)	220
図Ⅲ-470	D3c区の石器(39)	母岩757	接合3223(2)	187					
			接合3233(1)	187					
			接合3233(2)	187					
			接合3233(3)	187					

図Ⅲ-497	D3c区の石器(66)	母岩727	接合3090(4)	221	図Ⅲ-523	D3c区の石器(92)	母岩708	接合2977(1)	258	
図Ⅲ-498	D3c区の石器(67)	母岩680	接合2925-2926(1)	222	図Ⅲ-524	D3c区の石器(93)	母岩708	接合2977(2)	259	
図Ⅲ-499	D3c区の石器(68)	母岩680	接合2925-2926(2)	223	図Ⅲ-525	D3c区の石器(94)	母岩708	接合2977(3)、母岩707	接合2974(1)	260
図Ⅲ-500	D3c区の石器(69)	母岩680	接合2925-2926(3)	224	図Ⅲ-526	D3c区の石器(95)	母岩707	接合2974(2)、母岩689	接合2938(1)	262
図Ⅲ-501	D3c区の石器(70)	母岩709	接合2983-2984(1)	227	図Ⅲ-527	D3c区の石器(96)	母岩689	接合2938(2)	263	
図Ⅲ-502	D3c区の石器(71)	母岩709	接合2983-2984(2)、母岩719	接合3044・3045(1)	228	図Ⅲ-528	D3c区の石器(97)	母岩689	接合2938(3)	264
図Ⅲ-503	D3c区の石器(72)	母岩719	接合3044・3045(2)	229	図Ⅲ-529	D3c区の石器(98)	石刃技法・剥片生産関連	写真掲載資料(1)	266	
図Ⅲ-504	D3c区の石器(73)	母岩746	接合3190-3191(1)	230	図Ⅲ-530	D3c区の石器(99)	石刃技法・剥片生産関連	写真掲載資料(2)	267	
図Ⅲ-505	D3c区の石器(74)	母岩746	接合3190-3191(2)	231	図Ⅲ-531	D3c区の石器(100)	石刃技法母岩別接合資料分布図	268		
図Ⅲ-506	D3c区の石器(75)	母岩746	接合3190-3191(3)、母岩747	接合3197・3198(1)	232	図Ⅲ-532	F1区	接合資料分布図	270	
図Ⅲ-507	D3c区の石器(76)	母岩747	接合3197-3198(2)	233	図Ⅲ-533	Sb-46分布状況(平面・断面図)	271			
図Ⅲ-508	D3c区の石器(77)	母岩747	接合3197-3198(3)	234	図Ⅲ-534	Sb-47分布状況(平面・断面図)	272			
図Ⅲ-509	D3c区の石器(78)	母岩711	接合2998(1)	236	図Ⅲ-535	Sb-48分布状況(平面・断面図)	273			
図Ⅲ-510	D3c区の石器(79)	母岩711	接合2998(2)、母岩722	接合3061(1)	238	図Ⅲ-536	Sb-48出土遺物の分布(1)	274		
図Ⅲ-511	D3c区の石器(80)	母岩722	接合3061(2)、母岩717	接合3024+3025(1)	239	図Ⅲ-537	Sb-48出土遺物の分布(2)	275		
図Ⅲ-512	D3c区の石器(81)	母岩717	接合3024+3025(2)	240	図Ⅲ-538	Sb-48出土遺物の分布(3)	276			
図Ⅲ-513	D3c区の石器(82)	尖頭器・両面調整石器	関連写真掲載資料(1)	243	図Ⅲ-539	Sb-48出土遺物の分布(4)	277			
図Ⅲ-514	D3c区の石器(83)	尖頭器・両面調整石器	関連写真掲載資料(2)	244	図Ⅲ-540	Sb-49分布状況(平面・断面図)	278			
図Ⅲ-515	D3c区の石器(84)	尖頭器・両面調整石器	関連写真掲載資料(3)	247	図Ⅲ-541	Sb-49出土遺物の分布	279			
図Ⅲ-516	D3c区の石器(85)	尖頭器・両面調整石器	関連写真掲載資料(4)	249	図Ⅲ-542	F1区の石器(1)	石刃鏃・石鏃・尖頭器	281		
図Ⅲ-517	D3c区の石器(86)	尖頭器・両面調整石器	関連写真掲載資料(5)	250	図Ⅲ-543	F1区の石器(2)	尖頭器	282		
図Ⅲ-518	D3c区の石器(87)	尖頭器・両面調整石器	製作母岩別接合資料分布図	251	図Ⅲ-544	F1区の石器(3)	尖頭器・両面調整石器・舟底形石器	284		
図Ⅲ-519	D3c区の石器(88)	母岩668	接合2906	253	図Ⅲ-545	F1区の石器(4)	舟底形石器・彫器・削器	285		
図Ⅲ-520	D3c区の石器(89)	母岩755	接合3228	254	図Ⅲ-546	F1区の石器(5)	石刃・石刃核	287		
図Ⅲ-521	D3c区の石器(90)	母岩756	接合3232(1)	256	図Ⅲ-547	F1区の石器(6)	石核	288		
図Ⅲ-522	D3c区の石器(91)	母岩756	接合3232(2)	257	図Ⅲ-548	F1区の石器(7)	石核	289		
					図Ⅲ-549	F1区の石器(8)	母岩770	接合3559	291	
					図Ⅲ-550	F1区の石器(9)	母岩769	接合3554	292	
					図Ⅲ-551	F2区	接合資料分布図	294		
					図Ⅲ-552	Sb-50分布状況(平面・断面図)	295			
					図Ⅲ-553	Sb-50出土遺物の分布(1)	296			
					図Ⅲ-554	Sb-50出土遺物の分布(2)	297			
					図Ⅲ-555	Sb-50出土遺物の分布(3)	298			
					図Ⅲ-556	Sb-50出土遺物の分布(4)	299			
					図Ⅲ-557	Sb-51分布状況(平面・断面図)	300			
					図Ⅲ-558	Sb-51出土遺物の分布(1)	301			
					図Ⅲ-559	Sb-51出土遺物の分布(2)	302			
					図Ⅲ-560	Sb-51出土遺物の分布(3)	303			
					図Ⅲ-561	Sb-51出土遺物の分布(4)	304			
					図Ⅲ-562	Sb-52分布状況(平面・断面図)	305			

図Ⅲ-563	F2区の石器(1)	石鏃・尖頭器	308	図Ⅲ-594	F2区の石器(32)	母岩857	接合4052(1)	
図Ⅲ-564	F2区の石器(2)	尖頭器・両面調整石器	309	図Ⅲ-595	F2区の石器(33)	母岩857	接合4052(2)	348
図Ⅲ-565	F2区の石器(3)	舟底形石器	310	母岩854	接合4044			350
図Ⅲ-566	F2区の石器(4)	舟底形石器	312	図Ⅲ-596	F2区の石器(34)	尖頭器・両面調整石器		
図Ⅲ-567	F2区の石器(5)	舟底形石器・掻器	313	関連写真掲載資料(1)				352
図Ⅲ-568	F2区の石器(6)	掻器・削器・錐形石器・ 二次加工ある剥片	314	図Ⅲ-597	F2区の石器(35)	尖頭器・両面調整石器		
図Ⅲ-569	F2区の石器(7)	削片・石刃	316	関連写真掲載資料(2)				353
図Ⅲ-570	F2区の石器(8)	石刃核	318	図Ⅲ-598	F2区の石器(36)	尖頭器・両面調整石器		
図Ⅲ-571	F2区の石器(9)	石刃核	319	製作母岩別接合資料分布図				355
図Ⅲ-572	F2区の石器(10)	石刃核	320	図Ⅲ-599	F2区の石器(37)	母岩849	接合4028	357
図Ⅲ-573	F2区の石器(11)	石刃核・石核・巖石	321	図Ⅲ-600	F2区の石器(38)	母岩787	接合3581(1)	358
図Ⅲ-574	F2区の石器(12)	母岩776	接合4020(1)	図Ⅲ-601	F2区の石器(39)	母岩787	接合3581(2)	
図Ⅲ-575	F2区の石器(13)	母岩776	接合4020(2)	母岩790	接合3584(1)			359
図Ⅲ-576	F2区の石器(14)	母岩797	接合3593(1)	図Ⅲ-602	F2区の石器(40)	母岩790	接合3584(2)	360
図Ⅲ-577	F2区の石器(15)	母岩797	接合3593(2)	図Ⅲ-603	F2区の石器(41)	母岩793	接合3587	362
図Ⅲ-578	F2区の石器(16)	母岩797	接合3593(3)	図Ⅲ-604	F2区の石器(42)	母岩796	接合3592(1)	363
図Ⅲ-579	F2区の石器(17)	母岩802	接合3598(1)	図Ⅲ-605	F2区の石器(43)	母岩796	接合3592(2)	364
図Ⅲ-580	F2区の石器(18)	母岩802	接合3598(2)	図Ⅲ-606	F2区の石器(44)	母岩796	接合3592(3)	365
図Ⅲ-581	F2区の石器(19)	母岩802	接合3598(3)	図Ⅲ-607	F2区の石器(45)	母岩796	接合3592(4)	366
図Ⅲ-582	F2区の石器(20)	母岩802	接合3598(4)	図Ⅲ-608	F2区の石器(46)	母岩796	接合3592(5)	367
図Ⅲ-583	F2区の石器(21)	母岩805	接合3615(1)	図Ⅲ-609	F2区の石器(47)	母岩851	接合4035-4036 (1)	370
図Ⅲ-584	F2区の石器(22)	母岩805	接合3615(2)	図Ⅲ-610	F2区の石器(48)	母岩851	接合4035-4036 (2)	371
母岩773	接合3565(1)			図Ⅲ-611	F2区の石器(49)	母岩852	接合4037(2)	372
図Ⅲ-585	F2区の石器(23)	母岩773	接合3565(2)	母岩858	接合4065(1)			372
母岩774	接合3566(1)			図Ⅲ-612	F2区の石器(50)	母岩858	接合4065(2)	374
図Ⅲ-586	F2区の石器(24)	母岩774	接合3566(2)	母岩789	接合3583(1)			374
母岩782	接合3573(1)			図Ⅲ-613	F2区の石器(51)	母岩789	接合3583(2)	375
図Ⅲ-587	F2区の石器(25)	母岩782	接合3573(2)	母岩853	接合4041(1)			375
図Ⅲ-588	F2区の石器(26)	母岩800	接合3596	図Ⅲ-614	F2区の石器(52)	母岩853	接合4041(2)	376
図Ⅲ-589	F2区の石器(27)	母岩803	接合3601	母岩788	接合3582(1)			376
図Ⅲ-590	F2区の石器(28)	母岩848	接合4022-4023 (1)	図Ⅲ-615	F2区の石器(53)	母岩788	接合3582(2)	377
図Ⅲ-591	F2区の石器(29)	母岩848	接合4022-4023 (2)	図Ⅲ-616	F2区の石器(54)	母岩771	接合3560(1)	378
図Ⅲ-592	F2区の石器(30)	母岩850	接合4031	図Ⅲ-617	F2区の石器(55)	母岩771	接合3560(2)	380
図Ⅲ-593	F2区の石器(31)	母岩859	接合4073	図Ⅲ-618	F2区の石器(56)	母岩771	接合3560(3)	381
図Ⅲ-594	F2区の石器(32)	母岩857	接合4052(1)	図Ⅲ-619	F2区の石器(57)	母岩772	接合3562(1)	382
図Ⅲ-595	F2区の石器(33)	母岩857	接合4052(2)	図Ⅲ-620	F2区の石器(58)	母岩772	接合3562(2)	

.....	383	図Ⅲ-631	Sb-53出土遺物の分布	399		
図Ⅲ-621	F2区の石器(59) 母岩772 接合3562(3)	384	図Ⅲ-632	Sb-54分布状況(平面・断面図)	400
図Ⅲ-622	F2区の石器(60) 母岩784 接合3578(1)	386	図Ⅲ-633	Sb-54出土遺物の分布	401
図Ⅲ-623	F2区の石器(61) 母岩784 接合3578(2)	387	図Ⅲ-634	Sb-55分布状況(平面・断面図)	402
図Ⅲ-624	F2区の石器(62) 母岩777 接合3568	388	図Ⅲ-635	Sb-55出土遺物の分布	403
図Ⅲ-625	F2区の石器(63) 舟底形石器製作・石刃技法 ・剥片生産関連写真掲載資料(1)	390	図Ⅲ-636	Sb-56分布状況(平面・断面図)	404
図Ⅲ-626	F2区の石器(64) 舟底形石器製作・石刃技法 ・剥片生産関連写真掲載資料(2)	391	図Ⅲ-637	Sb-57分布状況(平面・断面図)	405
図Ⅲ-627	F2区の石器(65) 舟底形石器製作・石刃技法 ・剥片生産関連写真掲載資料(3)	394	図Ⅲ-638	Sb-58分布状況(平面・断面図)	406
図Ⅲ-628	F2区の石器(66) 石刃技法母岩別接合資料分布図	395	図Ⅲ-639	Sb-58出土遺物の分布	407
図Ⅲ-629	F3区 接合資料分布図	397	図Ⅲ-640	F3区の石器(1) 尖頭器	410
図Ⅲ-630	Sb-53分布状況(平面・断面図)	398	図Ⅲ-641	F3区の石器(2) 尖頭器・舟底形石器	411
				図Ⅲ-642	F3区の石器(3) 舟底形石器	412
				図Ⅲ-643	F3区の石器(4) 両面調整石器	413
				図Ⅲ-644	F3区の石器(5) 彫器・搔器・削器・ 二次加工ある剥片・削片	414
				図Ⅲ-645	F3区の石器(6) 石刃	416
				図Ⅲ-646	F3区の石器(7) 石刃	418
				図Ⅲ-647	F3区の石器(8) 石刃・石刃核・石核	419

第3分冊(本文Ⅲ章・石器実測・分布図編)表目次

Ⅲ章 遺構と遺物

表Ⅲ-19	母岩番号順挿入・図版一覧表	421
-------	---------------	-------	-----

群、Sb-51・52は小型舟底形石器石器群を主体とするブロックと捉えられ、上記したブロック毎の状況は石器群毎の製作技術の特徴として認識することが出来る。

石刃技法・舟底形石器製作・剥片生産の母岩別資料(図Ⅲ-599~628、図版290~306)

石刃技法母岩は、①母型形成がなく、石刃核を素材に両面調整石器が製作されるもの(図Ⅲ-599、母岩849、4Aiv類→1Ai類)、②母型形成がなく、平坦打面で頭部調整が施されるもの(図Ⅲ-600~615・625・626、母岩787~790・793~796・851~853・858、4Aiv類)、③母型形成があり、打面調整・頭部調整が施されるもの(図Ⅲ-616~621・624、母岩771・772・777、4Ci・ii・iii類)、④母型形成があり、平坦打面で頭部調整が施されるもの(図Ⅲ-622・623、母岩784、4Aii類)に区分できる。石刃技法②には作業過程で生じた剥片を素材に舟底形石器製作を行う個体が含まれる(図Ⅲ-600~612、母岩787・790・793・796・851・852・858)。舟底形石器製作・剥片生産関連の母岩は写真図版のみの掲載とした。石器群については小型舟底形石器石器群が12個体、有舌尖頭器母岩が4個体あり、前者は②、後者は③・④を主体的な技術としている。

母岩別資料849、接合資料4028(図Ⅲ-599、図版290-1)

母岩別資料849は接合資料4028~4030および非接合剥片4点で構成され、総点数は43点、総重量は705.6gである。

素材 104は接合資料4028である。32点(26個体)が接合し、重量は645.0gである。石質は黒曜石4で、角礫を素材とし、原石を粗割りした状態で遺跡内に搬入している。

剥離工程 母型形成がなく平坦打面に頭部調整を施し石刃を剥離する工程から、石刃核を素材とした両面調整石器製作に移行した資料で、剥離技術類型は前半が4Aiv類、後半が1Ai類に分類される。

段階1(石刃の剥離)

【工程1~3】工程1では下部から斜め方向に分厚い大型剥離を加えて下半部を大きく除去した後、平坦打面から角礫稜線に沿って縦長剥片剥離を開始し、連続的に工程2の石刃剥離を行う。工程3は左側面から上部への連続的な剥離である。剥離は徐々に裏面側へ傾くように施されている。これにより側面観が扁平な平行四辺形となる石核が形成される。なお、石刃剥離は3点程度で、原石の厚みを除去する整形剥離とも考えられるが、打面を形成し頭部調整を入念に加えていることから石刃技法の作業と判断した。

段階2(両面調整石器の製作)

【工程4~6】105は工程4~6接合状態である。工程4では下端から裏面側へ打瘤の発達する厚手の剥離を加え、自然面と器体の厚みを除去している。工程5~6は打瘤の発達のない平坦な縦長剥離が加えられ、器体中央部の厚みを取り込んで扁平に加工している。製作された石器は出土していないが、長11.0×幅9.4×厚4.0cmの円形に近い両面調整石器が製作されたことと観察できる。石刃剥離技術は小型舟底形石器石器群のものに共通するが、8cm前後の円形の両面調整体を製作する工程は同石器群の中では異質である。

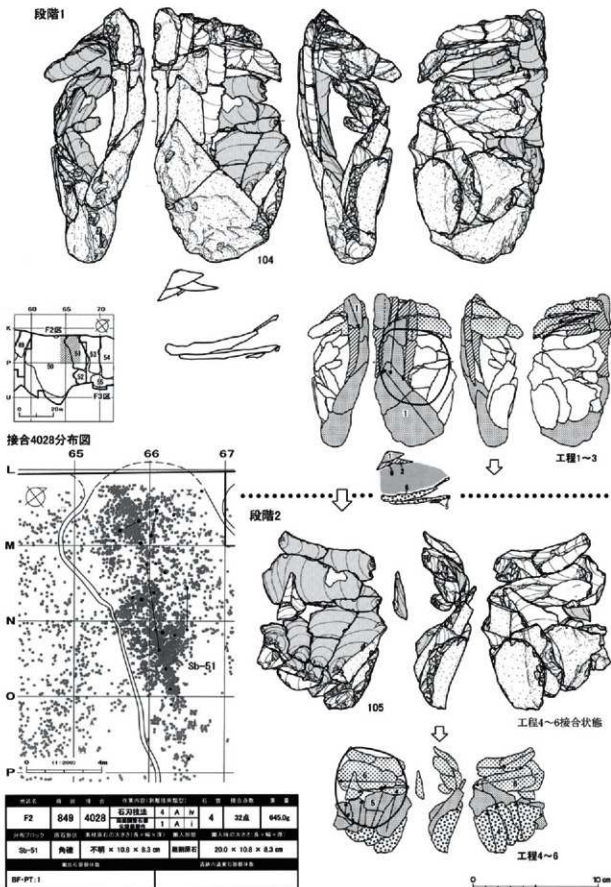
分布 Sb-51西部から南東部にかけての遺物分布集中範囲内に分布している。

母岩別資料787、接合資料3581(図Ⅲ-600・601、図版290-2・図版291-1)

母岩別資料787は接合資料3581のみで構成され、総点数は14点、総重量は1,051.3gである。小型舟底形石器石器群の母岩である。

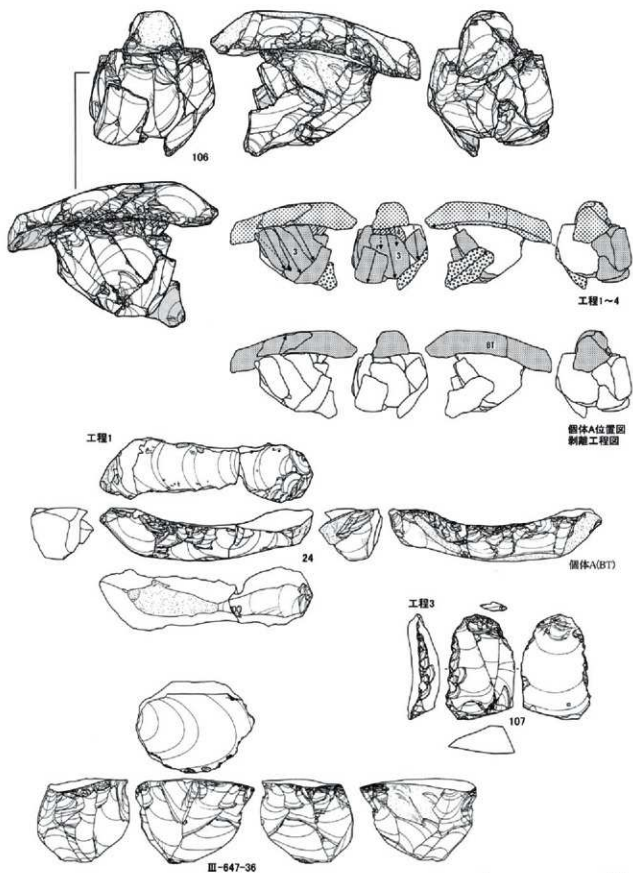
素材 106は接合資料3581で、14点(13個体)が接合している。石質は黒曜石3で角礫を素材とし、原石の状態でも遺跡内に搬入したと考えられる。

母岩849 接合4028

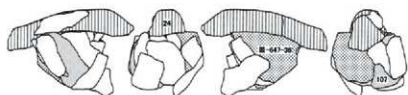


図Ⅲ-599 F2区の石器(37) 母岩 849 接合 4028

母岩787 接合3581

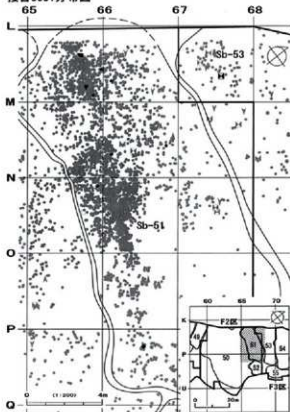


図Ⅲ-600 F2区の石器(38) 母岩787 接合3581(1)

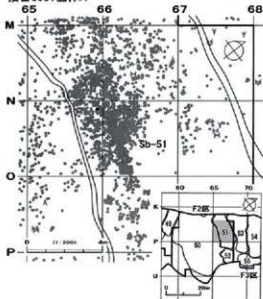


掲載資料位置図

接合3581分布図

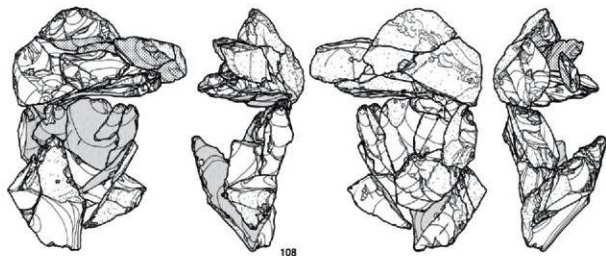


接合3581個体A



個体名	品名	種別	作業者	採取法	層位	出土位置	数量
F2	787	3581	石刃接合	A	A	3	14点
			接合部位置	3	A	層	1081kg
Sb-51-53	角礫	不明	不明	不明	不明	不明	不明
資料の保存状態							資料の保存状態
MT:1, SS:1, OC:1							

母岩790 接合3584



図III-601 F2区の石器(39) 母岩787 接合3581(2)、母岩790 接合3584(1)

剥離工程 石刃技法の接合資料で、母型形成はなく、平坦打面に頭部調整を施す。剥離技術類型では4Aiv類に分類される。また、打面作出剥片で舟底形石器(個体A)が製作されている。

工程1では大型剥片剥離により平坦打面が作出され、石刃剥離に移行する。工程2以前は裏面での石刃剥離が主体で、両設打面が設定され作業面高は12cmを越えていたとみられる。工程3は正面・右側面・裏面での石刃・縦長志向剥片の剥離である。厚手・幅広の剥片が逆面側作業面末端部を取り込むように剥離されている。107は工程3の剥片を素材とする削器である。Ⅲ-647-36は残核である。作業面の広範囲でヒンジが発生している。24は個体Aの舟底形石器で工程1の打面作出剥片を素材とする。甲板面が湾曲し下縁には自然面が残置する。側縁に加えられた粗い調整が原因で破損している。

分布 Sb-51西部の遺物集中範囲に主に分布する。石核Ⅲ-647-36がやや離れたSb-53西部から単独で出土している。

母岩別資料 790、接合資料 3584(図Ⅲ-601・602、図版291-2)

母岩別資料790は接合資料3584および非接合剥片12点で構成され、総点数は36点、総重量は740.1gである。小型舟底形石器石器群の母岩である。

素材 108は接合資料3584である。24点(20個体)が接合し、重量は679.9gである。石質は黒曜石4で角礫を素材とし、原石の状態で遺跡内に搬入したと考えられる。

剥離工程 石刃技法の接合資料で、母型形成はなく、平坦打面に頭部調整を施す。剥離技術類型では4Aiv類に分類される。また、作業面から剥離した縦長剥片や打面再生剥片で舟底形石器(個体A・B)が製作されている。

【工程1~3】工程1に先行し、上部自然面打面から正面自然面を除去する縦長剥片剥離が行われている。工程1・2では原石の上下面に大型の剥離を加えて平坦面を形成する。剥離は上面が裏面側、下面が正面側に傾くように加えられ、側面視が平行四辺形となっている。工程3では上部平坦面を打面として縦長剥片が剥離される。工程2で下面より剥離された大型剥片が個体Aの素材に使用されている。

【工程4~6】工程4・5では再び上面への大型剥離を行い、平坦面を形成する。工程4は厚手、工程5は平坦な剥離で、工程4の剥片が個体Bの素材に使用されている。工程6では上部平坦打面から石刃・縦長志向の剥片剥離が連続的に行われる。頭部調整は粗く軽微なものが観察される。

【個体A・B】舟底形石器を製作している。個体Aは長10.0×幅6.0×厚3.5cm前後、個体Bは長14.0×幅4.0×厚4.0cm前後の剥片を素材としている。両者とも素材腹面を甲板面に設定し側面調整を行うが、折損などの剥離の失敗が原因して粗い加工の段階で遺棄されている。

分布 Sb-51西部からSb-52にかけて分布し、Sb-51西部の遺物集中範囲にまとまりが認められる。

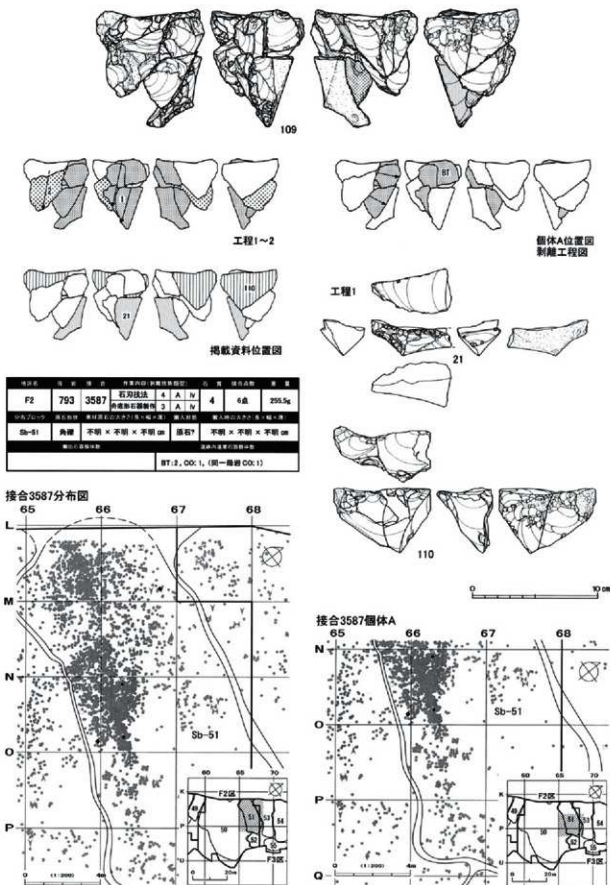
母岩別資料 793、接合資料 3587(図Ⅲ-603、図版291-3・図版292-1)

母岩別資料793は接合資料3587-3589、折れ接合資料62534および非接合剥片3点で構成され、総点数は18点、総重量は606.1gである。小型舟底形石器石器群の母岩である。

素材 109は接合資料3587である。6点(6個体)が接合し、重量は255.5gである。石質は黒曜石4で角礫を素材とし、原石の状態で遺跡内に搬入したと考えられる。接合3587自体は分割剥片素材の可能性はある。

剥離工程 石刃技法の接合資料で、母型形成はなく、平坦打面に軽微な頭部調整を施す。剥離技術類型では4Aiv類に分類される。作業は工程1・2で分割面とみられる広い平坦面を打面として石刃・縦長志向の剥片剥離を行っており、これらを素材にⅡ類舟底形石器が2点製作されている。縦長剥片は大型打面で厚手のものが連続して剥離され、大きさは長10.0×幅4.5×厚2.0~3.0cm前後である。舟

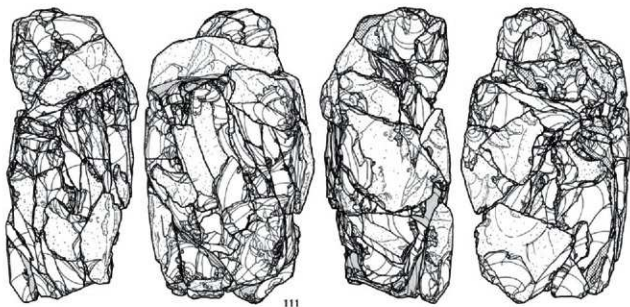
母岩793 接合3587



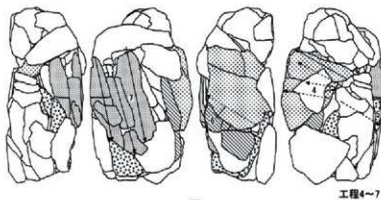
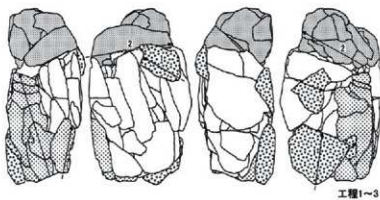
図Ⅲ-603 F2区の石器(41) 母岩793 接合3587

母岩796 接合3592

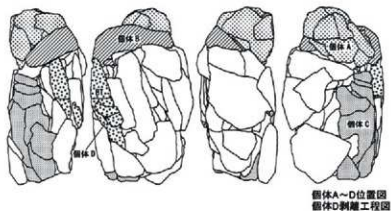
段階1



0 10 cm

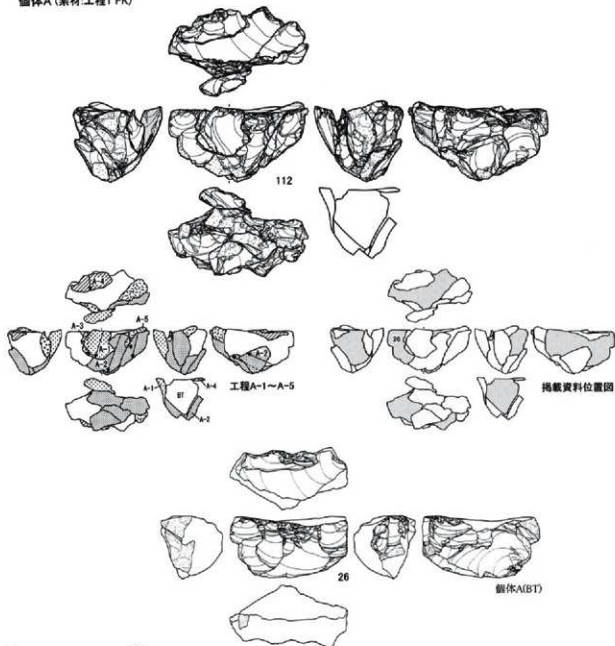


図Ⅲ-604 F2区の石器(42) 母岩796 接合3592(1)



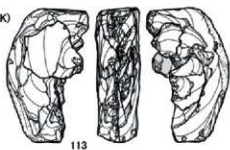
個体A～D位置図
個体D剥離工程図

個体A(素材:工程1 FK)

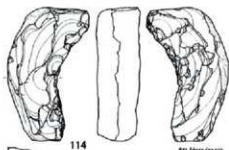


図Ⅲ-605 F2区の石器(43) 母岩 796 接合 3592(2)

個体B
(素材:工程1 FK)

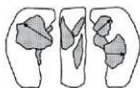


113



114

個体B(BF)



個体B剥離工程図



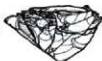
114

掲載資料位置図

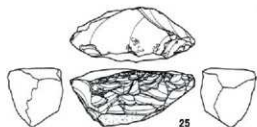
個体C(素材:工程2 FK)



115



工程C-1~C-3



25



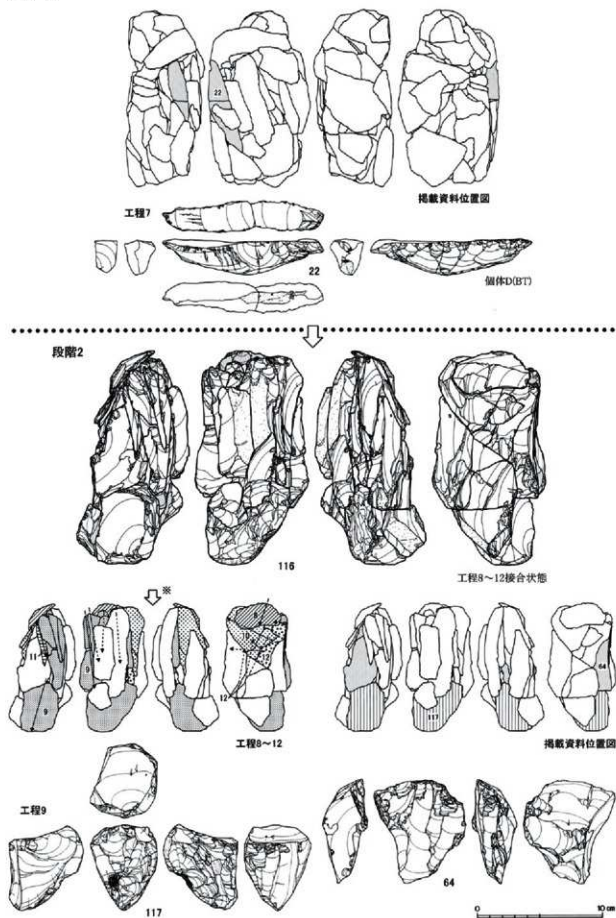
個体C(BT)



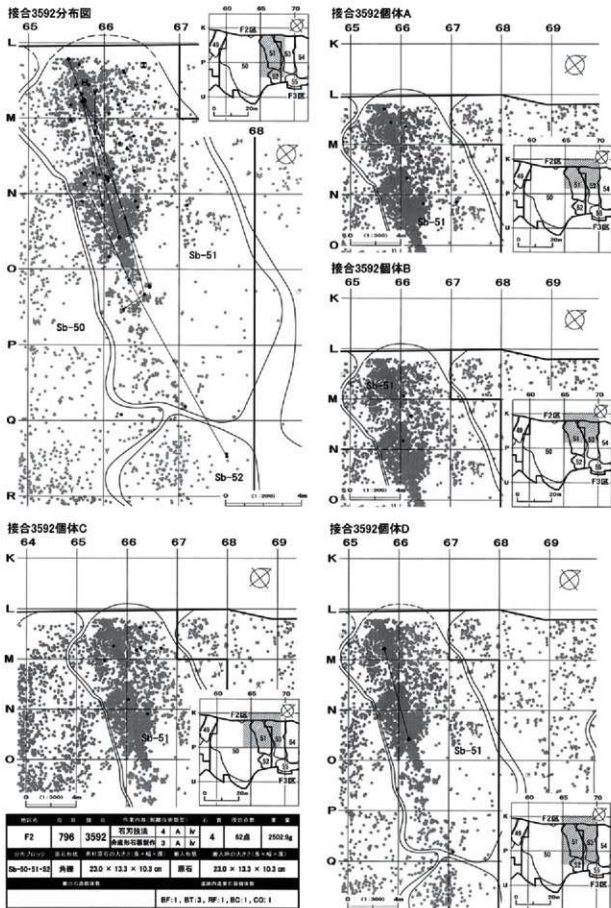
掲載資料位置図



図Ⅲ-606 F2区の石器(44) 母岩796 接合3592(3)



図Ⅲ-607 F2区の石器(45) 母岩 796 接合 3592(4)



図Ⅲ-608 F2区の石器(46) 母岩796 接合3592(5)

底形石器製作は縦長剥片の腹面を甲板面に設定し、厚手の側面調整を加えている。両個体とも折損が生じ、破片が遺棄されている。21は舟底形石器、110は残核である。

分布 Sb-51南西部M・N65・66区の遺物分布集中範囲内にややまとまって認められる。

母岩別資料 796、接合資料 3592(図Ⅲ-604-608、図版 293・294)

母岩別資料 796 は接合資料 3592 および非接合剥片 5 点で構成され、総点数は 67 点、総重量は 2,553.6 g である。小型舟底形石器石器群の母岩である。

素材 111 は接合資料 3592 で 62 点 (50 個体) が接合し、重量は 2,502.9 g である。石質は黒曜石 4 で角礫を素材とし、原石の状態で遺跡内に搬入している。

剥離工程 石刃技法の接合資料で、母型形成はなく、平坦打面に頭部調整を施す。剥離技術類型では 4Aiv 類に分類される。また、石刃・縦長剥片剥離作業に先行・並行する工程で剥離された剥片類が、舟底形石器や両面調整石器の素材に使用されている。

段階 1 (原石の粗割と縦長剥片の剥離)

【工程 1~2】工程 1 では広い正表面に大型剥離を加えて自然面を除去し、工程 2 では上面への分厚い剥離を連続して上部平坦打面を形成する。工程 2 剥離面(平坦打面)は裏面側に傾くように施され、作業面となる正面とは鋭角に接している。また、工程 2 の剥片を素材として個体 A・B の作業が行われている。

【工程 3~7】工程 3~6 は裏面と側面への大型剥離、工程 7 は正面での縦長剥片連続剥離である。工程 3 は下面から左側面への剥離で、自然面稜線に沿って分厚い縦長剥片が得られている。工程 4 では工程 3 で生じた剥離面を打面とし、裏面から右側面までを取り込む横方向の分厚い剥離が連続して加えられる。これにより背部に稜線が形成され、工程 5・6 では背後から正面側までを取り込む側面への大型剥離を行い、石核を整形している。工程 7 は正面側での連続的な縦長剥片剥離で、左側の自然面稜線から剥離が開始され順次右側へ作業が展開している。また、工程 3・4 の剥片が個体 C と二次加工ある剥片の素材に、工程 7 の厚手縦長剥片が個体 D の素材に使用されている。22 は個体 D で製作された舟底形石器で、粗い加工の段階で破損が生じ遺棄されている。

【個体 A】112 は個体 A 接合状態である。舟底形石器を製作した個体で、厚さ 6cm 弱の分厚い剥片を素材とし、腹面を甲板面に設定している。工程 A-1・2 では甲板面から下縁までを取り込む剥離や下縁からの剥離が行われるが、節理面の露出やヒンジなどが多発して歪な側面形状となり、器体の高さも減少されていない。工程 A-4 では甲板面への剥離を行うが、工程 A-5 で先端部を欠損し遺棄されている。26 は製作された舟底形石器で、左側面が著しく突出する左右非対称な形状である。また甲板面左側縁付近には複数のパンチ痕が認められ、加撃が剥離に至らなかった状況が看取できる。

【個体 B】113 は個体 B 接合状態である。両面調整石器を製作している。素材剥片右側縁部を両面調整して抉入状とし、縁辺には部分的に細かな調整が加えられている。114 は製作された両面調整石器である。

【個体 C】115 は個体 C 接合状態で舟底形石器を製作している。工程 C-1・2 では素材打面を折断除去し、大型打面で下縁までを取り込む側面調整剥離を行う。工程 C-3 では末端部に横方向の剥離を加えて 12.0cm あった器体長を 9.0cm まで減少させ、さらに端部稜線を形成している。側面はヒンジなどの発生により甲板面との角度が鈍角化しており、剥離の進行が困難となっている。25 は製作舟底形石器で、厚みが残り下縁には自然面も残置する。甲板面には左側面付近にパンチ痕が顕著に観察され、加撃が剥離に至らなかった状況が看取できる。

段階 2 (石刃・縦長志向剥片剥離段階)

【工程8~12】116は工程8~12接合状態である。工程8で打面を再生し、工程9で石刃・縦長剥片の連続的な剥離を行うが、ウートラパッセが発生して石核が小型化している。また、正面作業面にはヒンジも生じ作業の継続を困難としている。工程10~12は主に石核裏面への加工で、逆側縁末端部までを分厚く取り込む横方向の大型剥離が行われ、後続して側面での縦長剥片剥離や正面側への薄い平坦な剥離がみられる。これにより石核はやや扁平となるがそのまま遺棄されている。また、工程9で発生したウートラパッセの末端部分が石核に使用されている(117)。

分布 Sb-51の西部からSb-50・52にかけての広範囲に分布するが、主にSb-51の西部から南西部の遺物集中範囲内にまとまって認められる。個体A~DはSb-51の西部にややまとまって分布している。

母岩別資料 851、接合資料 4035・4036(図Ⅲ-609・610、図版292-2)

母岩別資料851は接合資料4035・4036および非接合剥片7点で構成され、総点数は47点、総重量は910.8gである。小型舟底形石器器群の母岩である。

素材 118は接合資料4035、119は接合資料4036である。二つ合計で40点(36個体)が接合し、重量は885.9gである。石質は黒曜石4で、角礫を素材とし、原石の状態で遺跡内に搬入している。

剥離工程 石刃技法の接合資料で、母型形成はなく、平坦打面に頭部調整を施す。剥離技術類型では4Aiv類に分類される。両接合資料の関係は、接合4036が打面作出剥片で118の裏面側から上面への剥離で得られたもの、接合4035は打面作出後の石刃剥離の工程である。以下、剥離工程の内容については接合資料別に記述する。

【接合4035】接合4036素材剥片剥離に後続する工程である。工程1・2では角礫自然面の稜線に沿って縦長剥片剥離を開始し、石刃剥離に連続する。大型打面で打瘤の発達する分厚い剥離を連続させ歪な自然面形状を除去し、石刃剥離のための作業面が形成されている。工程3・4では細かな頭部調整が加えられ、小打面で薄手の石刃剥離が開始される。石刃は長さ7~9cm・幅2cm前後である。

【接合4036】舟底形石器を製作した個体である。打面作出剥片を素材とし、腹面を甲板面に設定している。工程1・2は左側面側への自然面除去の剥離である。特に下縁部には打瘤の発達する分厚い剥離を加えて歪な自然面を除去し、器体の高さを著しく減少させている。工程3は右側面への加工で、上下からの剥離でヒンジを回避しながら器体中央部の幅を大きく減じている。工程5では先端部の折損が生じ、後続の工程で端部を折断して形状を補正したと観察できる。工程6は右側面への加工で、下縁を取り込む剥離が連続して加えられ、幅・高さの除去と石器長軸を形成している。工程7は甲板面への薄い剥離である。23は製作された舟底形石器である。下縁中央部に加えられた剥離が直線的であった下縁形状を損ない、遺棄されたものと考えられる。

分布 両接合資料ともSb-51西部から南西部の遺物集中範囲内に分布が認められる。

母岩別資料 852、接合資料 4037(図Ⅲ-610・611、図版295-1)

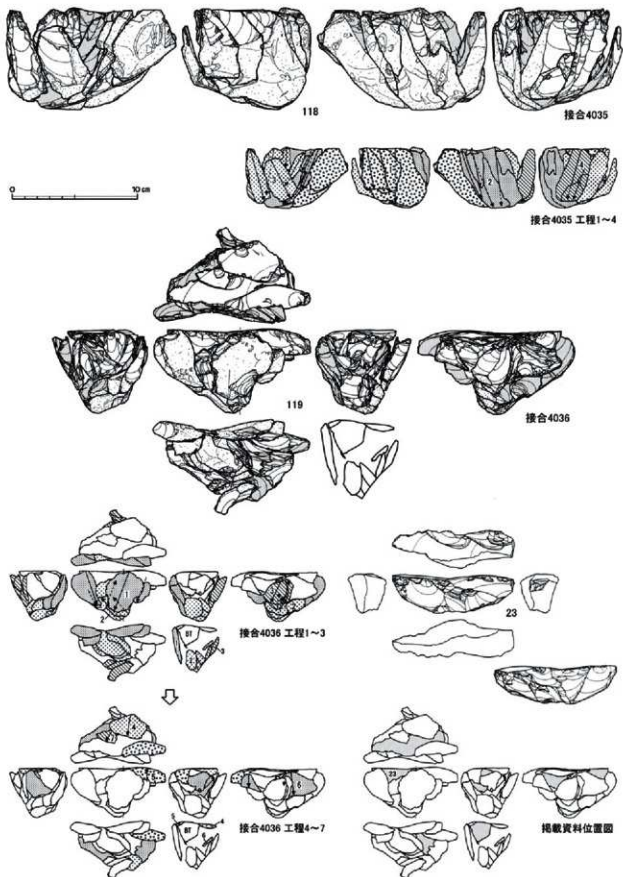
母岩別資料852は接合資料4037~4040および非接合剥片20点と縦長剥片1点、二次加工ある剥片1点で構成され、総点数は46点、総重量は580.0gである。小型舟底形石器器群の母岩である。

素材 120は接合資料4037で18点(16個体)が接合し、重量は372.7gである。石質は黒曜石4で亜角礫を素材とし、原石の状態で遺跡内に搬入したと考えられる。

剥離工程 石刃技法の接合資料で、母型形成はなく、平坦打面に頭部調整を施す。剥離技術類型では4Aiv類に分類される。

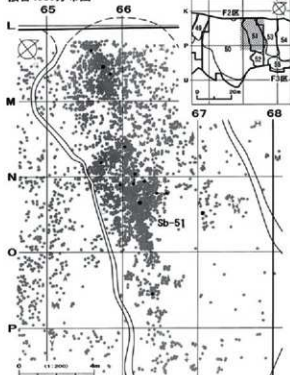
【工程1~2】工程1に先行し、大型剥片の粗削りが行われている。工程1では打面作出が行われ、長さ12cmを越える剥片が剥離されている。工程2は石刃剥離段階で長さ7cm・厚さ0.5cm前後の石刃が

母岩851 接合4035・4036

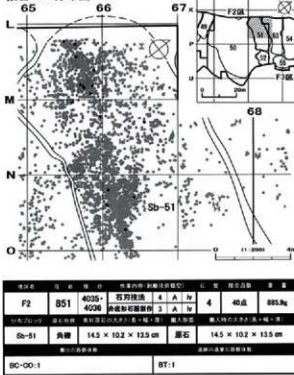


図Ⅲ-609 F2区 of 石器 (47) 母岩 851 接合 4035・4036 (1)

接合4035分布図

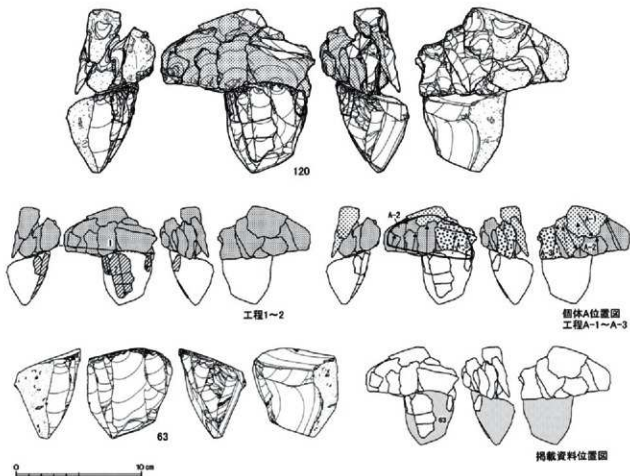


接合4036分布図



遺構名	区画	階	用途	構造	面積	容積	出土品	備考
F2	B51	4035・4036	石刃埋込	4	A・N	4	40品	895kg
		併設型石籠埋込		3	A・N			
		埋込型石籠埋込		1	埋込			埋込型石籠埋込
Gb-51	溝	14.5 × 10.2 × 13.5 cm	基石				14.5 × 10.2 × 13.5 cm	
BC-00:1		BT:1						

母岩852 接合4037



図Ⅲ-610 F2区の石器(48) 母岩851 接合4035・4036(2)、母岩852 接合4037(1)

剥離されたとみられる。

【個体 A】舟底形石器を製作した個体である。素材腹面を甲板面に設定し、打窟の発達する厚手の側面調整剥離が上下から加えられている。剥離は順次下縁を取り込むように行われ、素材段階で6.5cm程であった高さ(厚さ)が2cm程度まで減じられている。舟底形石器の出土はあく遺跡外へ搬出されたことが推測される。

分布 Sb-51 西部から南西部の遺物集中範囲内に分布が認められる。

母岩別資料 858、接合資料 4065 (図Ⅲ-611・612、図版 295-2)

母岩別資料 858 は接合資料 4065～4072 および非接合剥片 7 点と二次加工ある剥片 1 点で構成され、総点数は 43 点、総重量は 769.5 g である。小型舟底形石器石器群の母岩である。

素材 121 は接合資料 4065 で 13 点 (12 個体) が接合し、重量は 334.9 g である。石質は黒曜石 4 で角礫を素材とし、原石の状態で遺跡内に搬入したと考えられる。

剥離工程 石刃技法の接合資料で、母型形成はなく、平坦打面に頭部調整を施す。剥離技術類型では 4Aiv 類に分類される。

【工程 1～4】工程 1 で打面を作出し、工程 2 に先行して平坦打面から自然面を取り込む縦長剥片剥離を開始する。工程 2 ではやや大型打面で自然面付の剥片が剥離され、工程 3 では下設打面から厚手の剥離が行われている。工程 4 以降は小打面の石刃・縦長志向剥片の剥離となっている。同一母岩資料中には工程 4 に並行すると考えられる長さ 10cm・幅 3cm 程度の石刃が認められる。65 は残核である。自然面の右側面を除いた全縁に頭部調整が加えられている。

【個体 A】19 は製作舟底形石器である。工程 1 で剥離された長 10.0 × 幅 7.5cm の剥片を素材とし、腹面を甲板面に設定している。幅 1.5cm まで加工が進むが右側面には深いヒンジが発生し、さらに器体の 3 分の 1 ほどを折損して遺棄されている。

分布 Sb-51 西部から Sb-50 にかけてやや散発的に分布している

母岩別資料 789、接合資料 3583 (図Ⅲ-612・613、図版 295-3)

母岩別資料 789 は接合資料 3583 および非接合剥片 2 点と石刃 1 点で構成され、総点数は 11 点、総重量は 388.5 g である。小型舟底形石器石器群の母岩である。

素材 122 は接合資料 3583 で 8 点 (8 個体) が接合し、重量は 374.1 g である。石質は黒曜石 4 で、亜角礫を素材とし、原石の状態で遺跡内に搬入している。長さ 14cm 程度の小型原石を選択している。

剥離工程 石刃技法の接合資料で、母型形成はなく、平坦打面に頭部調整を施す。剥離技術類型は 4Aiv 類に分類される。原石長軸を石刃剥離作業方向に設定している。工程 1 では裏面側へ傾く様に打面作出剥離が加えられ、工程 2 で自然面稜線に沿って縦長剥片剥離が開始される。作業は石刃剥離へ連続し、工程 3 の 2 度の打面再生と石刃剥離を挟んで、工程 4 の自然面付の石刃が剥離されている。自然面を取り込まない石刃と、石刃核が欠落し、遺跡外へ搬出されたことが推測される。

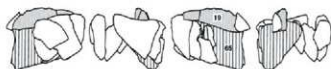
分布 Sb-51 南西部 M・N65・66 区の遺物集中範囲から Sb-52 にかけて分布している。

母岩別資料 853、接合資料 4041 (図Ⅲ-613・614、図版 296-1)

母岩別資料 853 は接合資料 4041・4043 および非接合剥片 3 点で構成され、総点数は 16 点、総重量は 459.0 g である。小型舟底形石器石器群の母岩である。

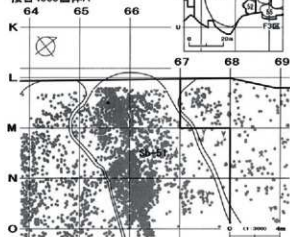
素材 123 は接合資料 4041 で 11 点 (10 個体) が接合し、重量は 432.3 g である。石質は黒曜石 4 で亜角礫を素材とし、原石の状態で遺跡内に搬入している。長さ 13cm 程度の小型原石を選択している。

剥離工程 石刃技法の接合資料で、母型形成はなく、平坦打面に頭部調整を施す。剥離技術類型では 4Aiv 類に分類される。工程 1 で平坦打面を作出し、自然面から縦長剥片を剥離して作業面を形成し、

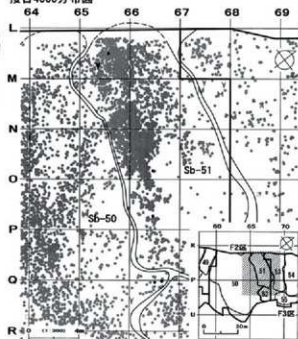


掲載資料位置図

接合4065個体A



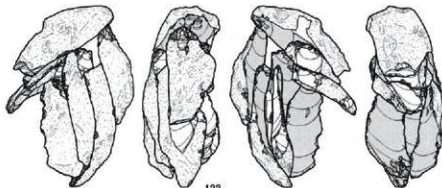
接合4065分布図



物品名	品目	数量	材質	形状	用途	長さ	幅	厚さ	重量
F2	858	4065	石刀技法	4 A, 4 B, 4 C, 4 D	石刀	13	8	3	334.5g
50-51	角鏃	不明 × 不明 × 不明 cm	燧石	不明 × 不明 × 不明 cm	不明	不明	不明	不明	不明

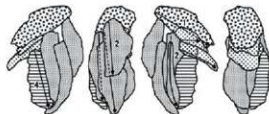
※1: 1, ※2: 1, ※3: 1, ※4: 1, ※5: 1, ※6: 1, ※7: 1

母岩789 接合3583



122

0 10 cm

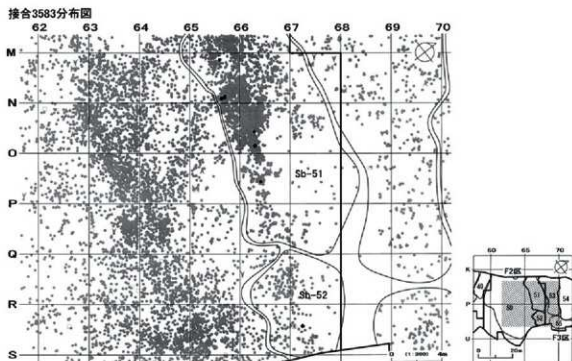


工程1~4

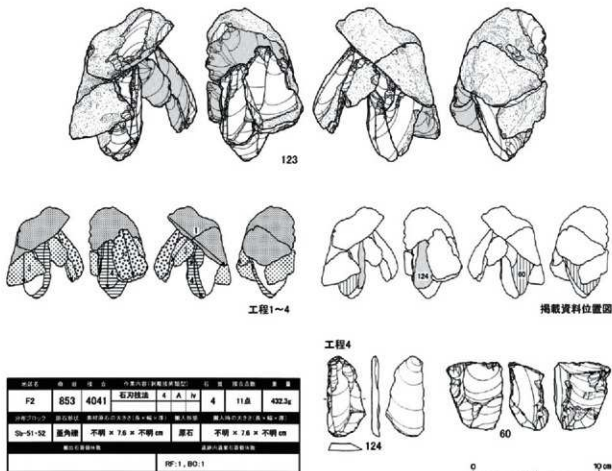
物品名	品目	数量	材質	形状	用途	長さ	幅	厚さ	重量
F2	789	3583	石刀技法	4 A, 4 B, 4 C, 4 D	石刀	13	8	3	374.1g
50-51-52	角内鏃	14.2 × 6.2 × 10.1 cm	燧石	14.2 × 6.2 × 10.1 cm	不明	不明	不明	不明	不明

※1: 1, ※2: 1, ※3: 1, ※4: 1, ※5: 1, ※6: 1, ※7: 1

図Ⅲ-612 F2区の石器(50) 母岩858 接合4065(2)、母岩789 接合3583(1)



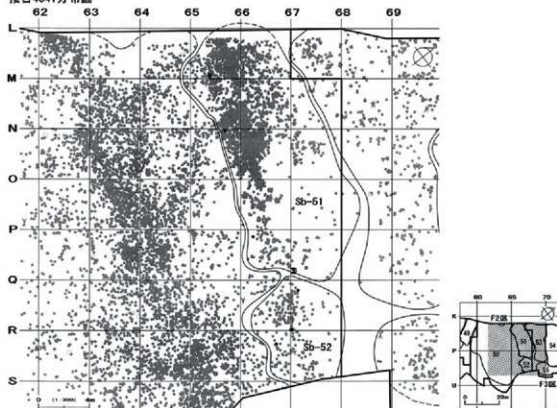
母岩853 接合4041



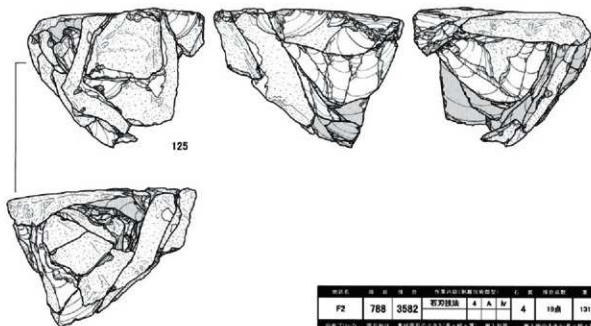
図III-613 F2区の石器(51) 母岩789 接合3583(2)、母岩853 接合4041(1)

2 遺物

接合4041分布図



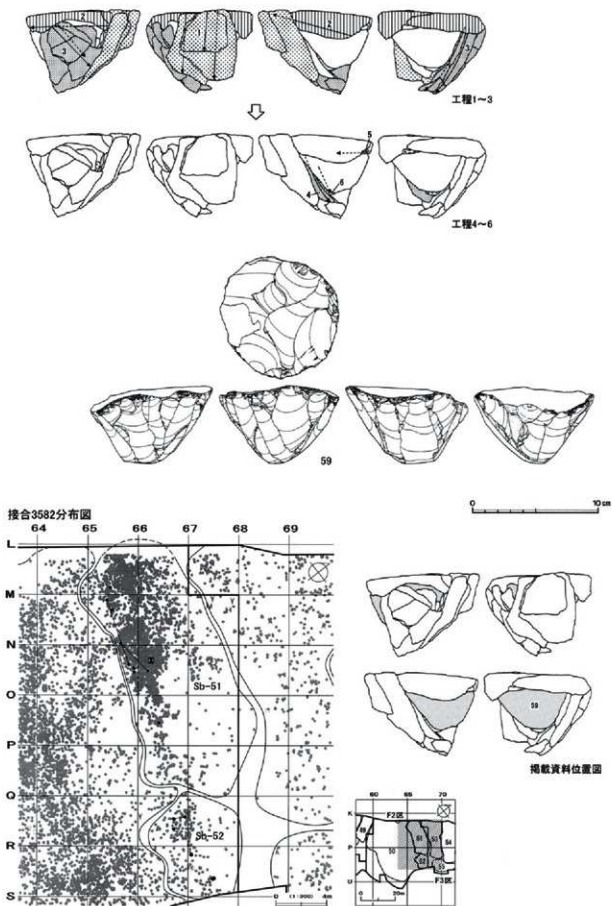
母岩788 接合3582



0 10cm

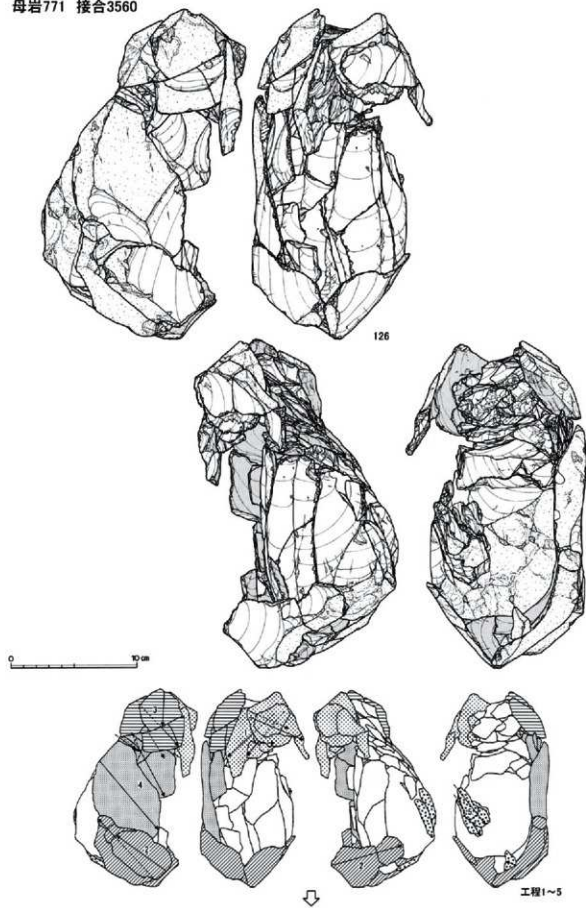
F2	788	3582	母岩の別(種類別)			F2区	母岩の重さ
			別別種類	A	B		
			4	4	4	19点	1312.1g
母岩の種類	母岩別	母岩の重さ(合計)	8・4	4	4	母岩の重さ(合計)	8・4
St-51-52	角礫	(10~13) × 13.9 × 14.9 cm	燧石	(10~13) × 13.9 × 14.9 cm			
備考: 母岩別							BC: 1

図一614 F2区の石器(52) 母岩 853 接合 4041(2)、母岩 788 接合 3582(1)



図Ⅲ-615 F2区の石器(53) 母岩788 接合3582(2)

母岩771 接合3560



図Ⅲ-616 F2区の石器(54) 母岩771 接合3560(1)

石刃剥離に至ったものと捉えられる。工程3では石核背部へ自然面を除去する剥離を加えているが、工程2と連続して行われたことが考えられる。石刃は大半が欠落しており遺跡外への搬出が推測される。同一母岩資料の状況などから生産石刃の大きさは、長7.0×幅2.5×厚0.5cm前後とみられる。124は工程4剥離の石刃、60は残核である。

分布 Sb-51西部からSb-52にかけて分布し、特にSb-51南東部からSb-52の範囲で遺物がまるとまって認められる。

母岩別資料788、接合資料3582(図Ⅲ-614・615、図版296-2)

母岩別資料788は接合資料3582および非接合剥片5点で構成され、総点数は24点、総重量は1.3477gである。小型舟底形石器石器群の母岩である。

素材 125は接合資料3582で19点(13個体)が接合し、重量は1.3121gである。石質は黒曜石4で角礫を素材とし、原石の状態で遺跡内に搬入している。原石形状は三角錐体を呈する。

剥離工程 石刃技法の接合資料で、母型形成はなく、平坦打面に頭部調整を施す。剥離技術類型では4Aiv類に分類される。工程1・3は自然面を除去し作業面を形成する縦長剥片剥離で、石核上面親三角の三つの角部から作業を開始している。工程1は自然面打面、工程3は工程2で作出された打面を使用している。以降は石核を全周するように作業面が展開されるが、石刃のほとんどが欠落している。接合資料から生産石刃は長さ8cm前後・幅2.5cm前後と推測される。59は残核である。作業面が周囲に円錐状となっている。打面には複数の剥離面が観察されるが、一面の広い剥離面の範囲で多数の石刃が剥離されており、単剥離打面と同様の内容と捉えられる。

分布 Sb-51西部から南西部の遺物集中範囲と、Sb-52に分かれて分布する。

母岩別資料771、接合資料3560(図Ⅲ-616~618、図版297・298)

母岩別資料771は接合資料3560・3561、折れ接合資料62530および非接合剥片23点で構成され、総点数は108点、総重量は2.8210gである。有舌尖頭器石器群の母岩と考えられる。

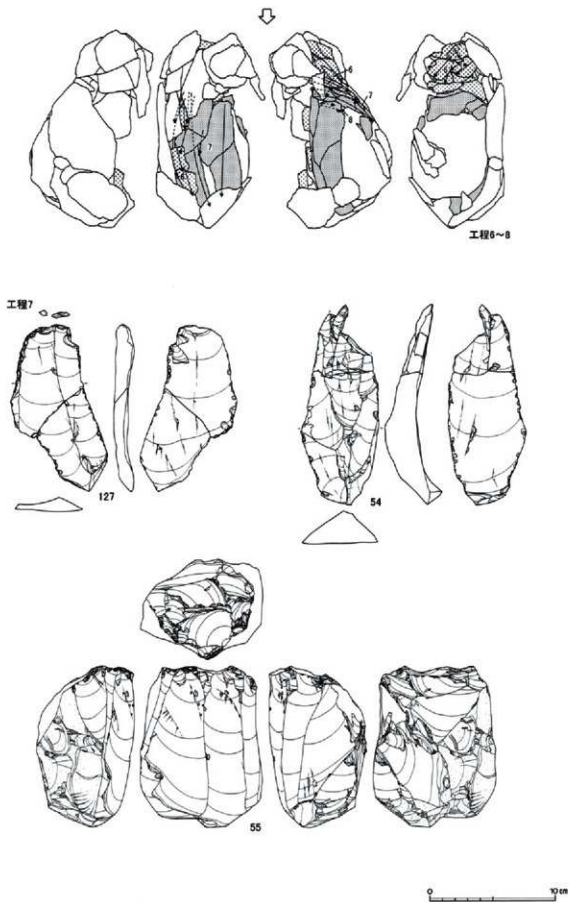
素材 126は接合資料3560で、76点(43個体)が接合し、重量は2.5344gである。石質は黒曜石1で、角礫を素材とし、粗割り原石の状態で遺跡内に搬入したと考えられる。石質は節理や鉱物結晶などの夾雑物が多く入るものである。

剥離工程 角礫原石の平滑な自然面を背部に設定し、打面調整・頭部調整を加えながら石刃剥離を行った資料で剥離技術類型は4Ciii類に分類される。

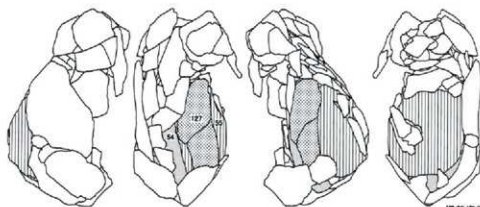
【工程1~5】母型形成の段階である。工程1~3は上下端部付近への剥離で、歪な自然面形状を除去して端部を取鋭形状に整形し、併せて作業面調整を行ったと考えられる。工程2は正面から、工程3は上部から左右側面へ打ち分けるように剥離している。工程4は背部から左側面への大型剥離で、側面の自然面を除去して平坦に加工し、工程3整形部へ連続する稜線を形成している。工程5は裏面左側縁稜線部への調整剥離で、背部が平坦となる様に加工している。

【工程6~8】石刃剥離の段階である。工程6では頻繁な打面調整を加えながら長さ20cm弱・幅3.5cm前後の石刃を剥離するが、その大半が欠落する。工程7は打面再生後の剥離で、頭部調整がない厚手・幅広の石刃が剥離されるが、欠落はなく接合率が高い。工程8は打面調整剥片の接合だが、この段階の石刃は全て欠落している。工程8石刃は長さ13.0cm・幅3.0cm前後とみられる。工程6・8では目的の石刃を剥離し、遺跡外へ搬出したと推測できる。工程7については、工程8以降の作業が左側面に展開するようになることから、これに先行して作業面を形成・調整した剥離と観察できる。127・54は工程7の石刃である。55は残核で、最終段階では幅広の石刃が剥離されている。

分布 Sb-50北西部から南東部に連なる遺物集中範囲とその周辺に広く分布している。



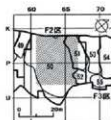
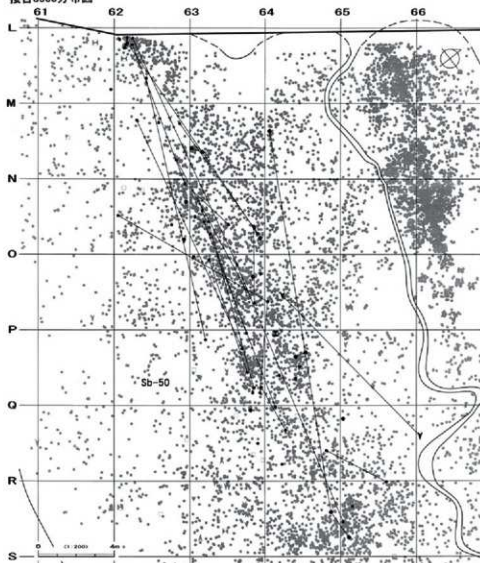
図Ⅲ-617 F2区の石器(55) 母岩 771 接合 3560(2)



掲載資料位置図

地区名	発見地	発見年	作業者	発掘法	土層	出土層	出土位置	数量	
F2	771	3560	石刃抽出	4	C	III	I	河床	2504kg
Sb-50		角礫	25.0 × 不明 × 不明 cm	不明	不明	不明	不明	不明	不明
Sb-50		角礫	25.0 × 不明 × 不明 cm	不明	不明	不明	不明	不明	不明

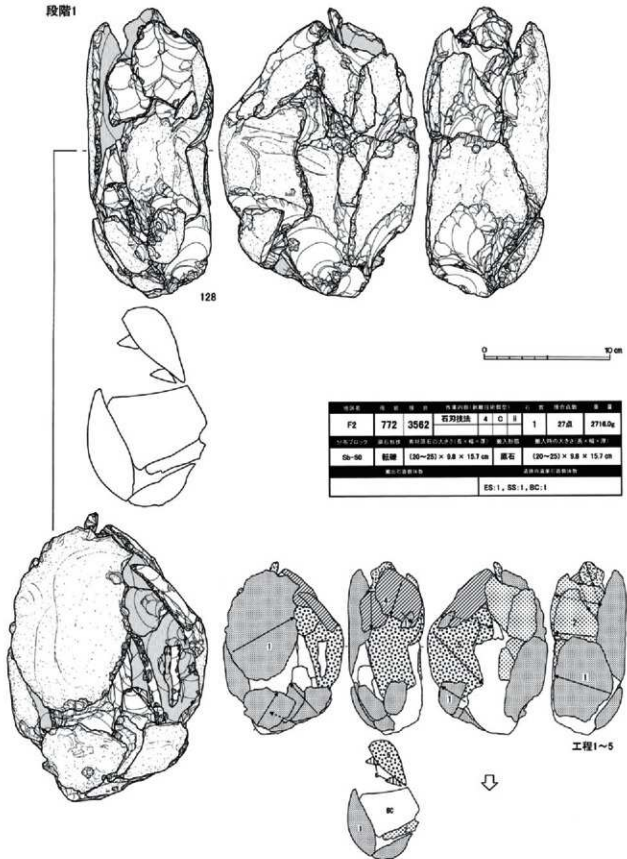
接合3560分布図



図Ⅲ-618 F2区の石器(56) 母岩 771 接合 3560(3)

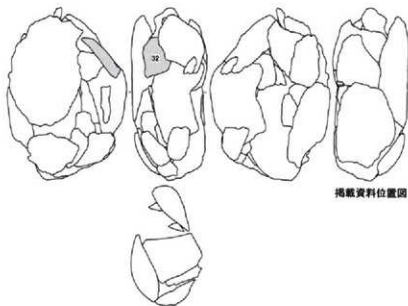
母岩772 接合3562

段階1



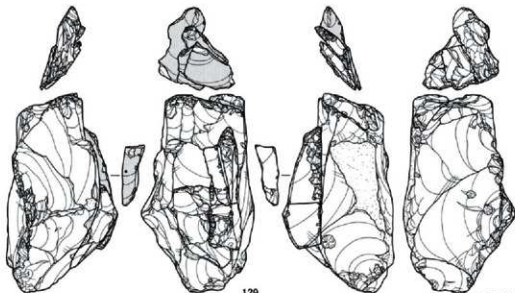
図Ⅲ-619 F2区の石器(57) 母岩772 接合3562(1)

工程4

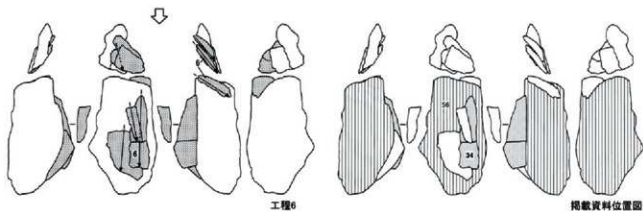


掲載資料位置図

段階2

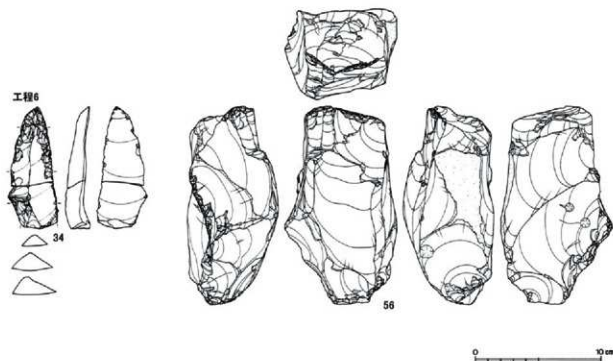


工程6接合状態

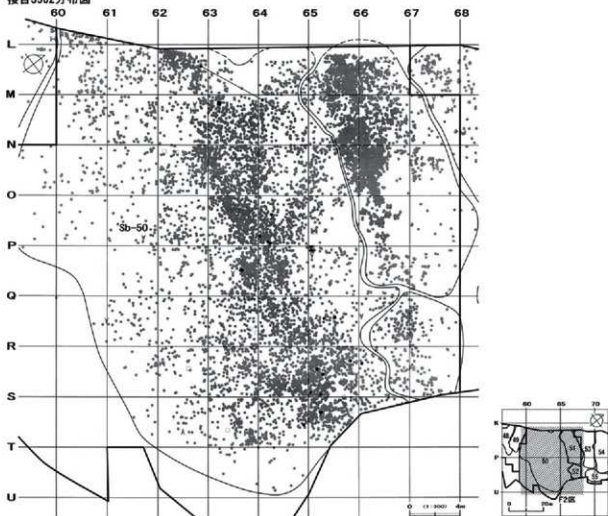


掲載資料位置図

図Ⅲ-620 F2区の石器(58) 母岩772 接合3562(2)



接合3562分布図



図Ⅲ-621 F2区の石器(59) 母岩772 接合3562(3)

母岩別資料 772、接合資料 3562(図Ⅲ-619~621、図版 299)

母岩別資料 772 は接合資料 3562~3564、折れ接合資料 62531 および非接合剥片 24 点で構成され、総点数は 57 点、総重量は 2,917.2 g である。有舌尖頭器石器群の母岩と考えられる。

素材 128 は接合資料 3562 で、27 点 (23 個体) が接合し、重量は 2,716.0 g である。石質は黒曜石 1 で転礫を素材とし、原石の状態で遺跡内に搬入したと考えられる。

剥離工程 やや扁平な転礫原石の小口面を作業面と背部に設定し、剥離によって母型背部に平坦面を形成するもので、打面調整・頭部調整を加えながら石刃剥離を行っている。剥離技術類型は 4Cii 類に分類される。

段階 1(母型の形成)

【工程 1~5】工程 1 は背部と側面への自然面除去の粗削り、工程 2 は背部への横方向の大型剥離で背部に平坦面を形成する。工程 1 作業面下部への剥離は、石核下半の収斂形状を形成している。工程 3 は打面作出・調整の剥離で、工程 4 では正面で縦長志向の剥片剥離を行い作業面の形成を行っている。工程 5 は作業面から側面への横方向の大型剥離で、自然面を除去して作業面形状を整えている。工程 4 で剥離された石刃を素材として搔器 32 が製作されている。

段階 2(石刃剥離)

【工程 6】129 は工程 6 接合状態である。頻繁な打面調整を施し、長さ 13cm 前後の石刃を剥離している。石刃作業面は当初石刃核長軸に対し 55° 程の角度で交わる様に設定されるが、顕著な打面再生を伴う石刃剥離作業の進行に伴い、順次並行方向に変位したと観察され、作業面の位置も下方に移行している。このため作業が進行しても概ね同じ長さの石刃が剥離されていたと考えられる。34 は工程 6 の石刃を素材とした刮器で、基部が尖頭形に加工されている。56 は残核である。正面左側で最終的な作業が行われ、ヒンジが発生している。

分布 Sb-50 の北西部から南東部に連なる遺物集中範囲内に広く分布し、北西部 (M63区付近)、中央部 (O64区付近)、南東部 (R65区付近) の三つのまとまりに区分できる。但し、各分布のまとまりと剥離工程との間に特定の関係は見出せない。

母岩別資料 784、接合資料 3578(図Ⅲ-622・623、図版 300・301-1)

母岩別資料 784 は接合資料 3578・3579 および非接合剥片 24 点で構成され、総点数は 102 点、総重量は 3,121.1 g である。有舌尖頭器石器群の母岩と考えられる。

素材 130 は接合資料 3578 で、75 点 (38 個体) が接合し、重量は 3,062.8 g である。石質は黒曜石 2 で転礫を素材とし、原石の状態で遺跡内に搬入している。

剥離工程 石刃技法の接合資料で、母型は背部に平坦面を形成し、平坦打面で頭部調整を加えながら石刃剥離を行う。剥離技術類型は 4Aii 類に分類される。長軸方向の自然面稜線が走る正面側を作業面、平坦な自然面が位置する裏面側を石核背部に設定している。

段階 1(母型の形成)

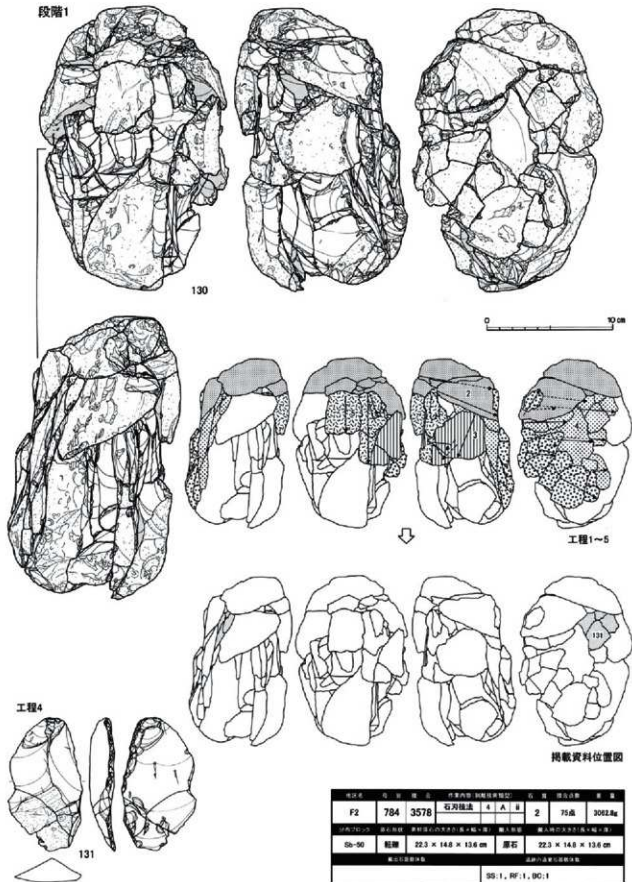
【工程 1~5】工程 1 では背部へ幅広剥離を加えて自然面の除去を行う。工程 2 では正面から裏面側へ傾くように打面作出剥離が複数回行われ、平坦打面が形成される。工程 3 では右側面に自然面除去の大型剥離が打面および背部側から加えられる。工程 4 では再び裏面側へ横方向の剥離を連続して加え、背部平坦面を形成している。工程 5 では正面中央部の自然面稜線に沿った縦長志向の剥離を行い、作業面形成がなされている。

段階 2(打面再生・石刃の剥離)

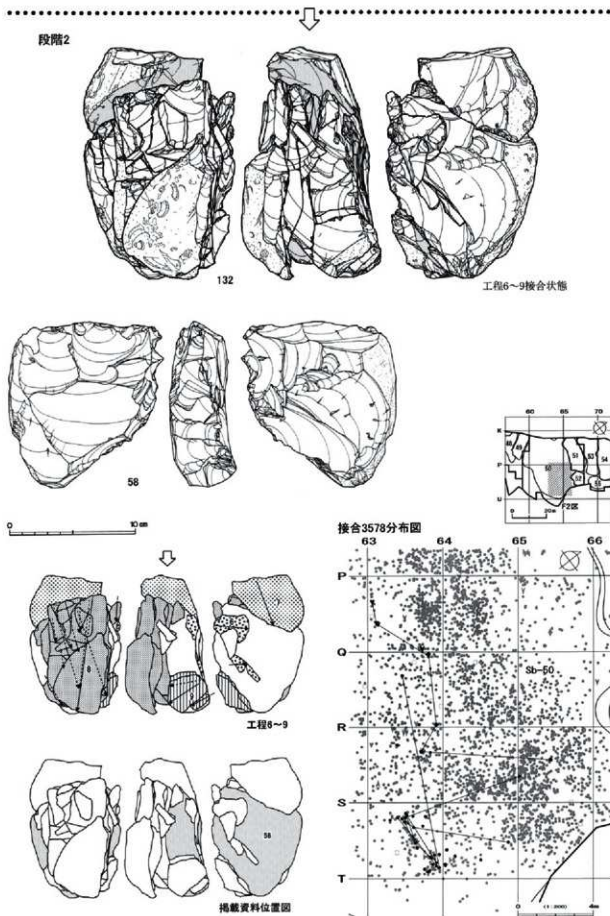
【工程 6~9】工程 6 は背部を平坦に剥離している。工程 7 では平坦打面が再生され、工程 8 では自然

母岩784 接合3578

段階1

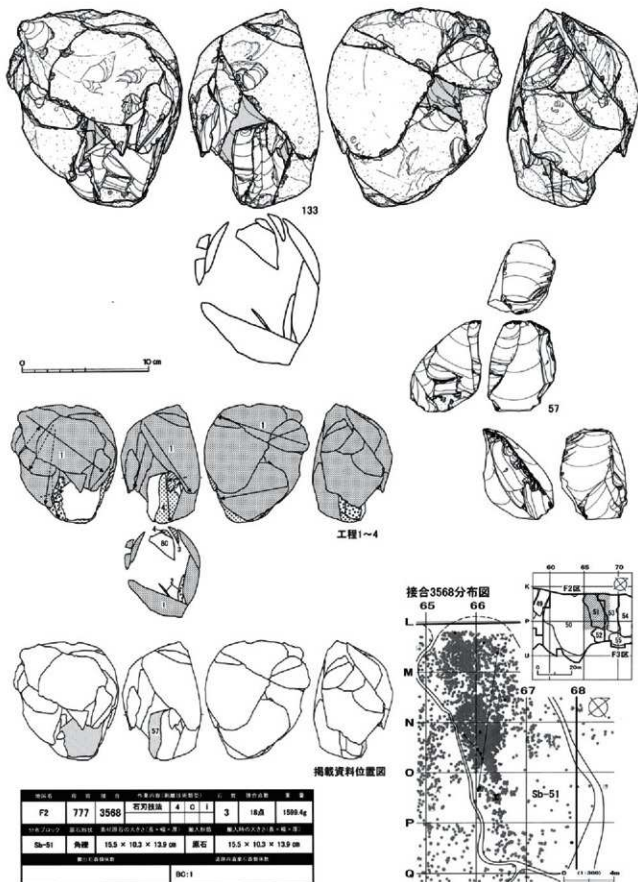


図Ⅲ-622 F2区の石器(60) 母岩784 接合3578(1)



図Ⅲ-623 F2区の石器(61) 母岩784 接合3578(2)

母岩777 接合3568



図Ⅲ-624 F2区の石器(62) 母岩777 接合3568

面除去の縦長剥片剥離から石刃剥離までが連続的に行われる。石刃は頭部調整が軽微で大型打面、打瘤の発達が強いなどの特徴がみられる。また長さは14cm前後で幅広なものが多い。工程9では背部から右側面下部への石核整形剥離が加えられるが、そのまま遺棄されている。58は残核である。作業面への最終的な剥離は幅広でヒンジを起こしており、以降の石刃剥離を困難としている。

分布 Sb-50南東部S63区にまとまった分布がみられる。S63区北側周辺に散在する資料は工程4の大型剥片と工程8の縦長志向の剥片、石刃である。

母岩別資料 777、接合資料 3568 (図Ⅲ-624、図版 301-2)

母岩別資料777は接合資料3568のみで構成され、総点数は18点、総重量は1,599.4gである。有舌尖頭器石器群の母岩と考えられる。

素材 133は接合資料3568で、18点(13個体)が接合している。石質は黒曜石3で角礫を素材とし、原石の状態で遺跡内に搬入している。原石は表面が岩屑面に覆われるため角礫としたが、滑らかに湾曲する面を持ち円形に近い。

剥離工程 石刃技法の接合資料で、母型は背稜を形成し、調整打面で頭部調整を加えながら石刃剥離を行っている。剥離技術類型は4C1類に分類される。工程1~3は母型形成の加工である。工程1は自然面除去の粗削りで、裏面から正面に至る大型剥離を左右側面に加えている。これにより粗く背稜を作り出した分厚い両面調整体状の母型が形成されるが、正面作業面には自然面が残置している。工程2では背稜の整形加工を行い、工程3ではさらに背部から正面に至る剥離で正面の自然面を除去し、並行して左側面側にも上面や裏面からの調整剥離が行われたと観察される。その後打面を作出して石刃剥離が開始されるが、工程4の行われた作業面では自然面との位置関係を考慮するとせいぜい数回程度の石刃剥離しか行うことができない。そのため、①当初の作業面は正面上位に位置し打面再生にともなって下方に移動してきた、②当初の作業面は左側面に位置し90°作業面転移で正面側に移動した、などの工程により一定量の石刃を剥離したことが推測される。横断面図には母型背稜の位置と石核背部との間に広い空隙部が認められ、打面再生などの頻繁な石核調整剥離が行われたことが示唆される。57は残核である。打面作出剥離により背部は平坦となっている。

分布 Sb-51西部から南西部の遺物集中範囲内に分布している。

石刃技法・舟底形石器製作・剥片生産母岩・写真図版掲載資料 (図Ⅲ-625~627、図版 301-3~図版 306)

母岩別資料 791、接合資料 3585 (図Ⅲ-625、図版 301-3)

母岩別資料791は接合資料3585のみで構成され、総点数は7点、総重量は145.6gである。小型舟底形石器石器群の母岩である。

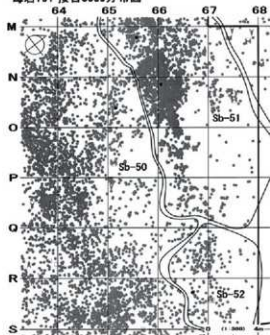
素材 152は接合資料3585で、7点(7個体)が接合している。石質は黒曜石4で剥片を素材とし、舟底形石器の状態で遺跡内に搬入している。使用原石の形状は不明である。

剥離工程 IIa類舟底形石器を製作した資料で、剥離技術類型は3A類に分類される。搬入時の舟底形石器は長さ16cmを越える大型品で、やや粗い加工の状態と観察できる。作業は下縁への大型打面で打瘤が発達する剥離と、甲板面からの下縁を厚く取り込む剥離により、器体の高さや幅を減少させて下縁の稜線を直線的に整形している。製作された舟底形石器は出土していない。大型舟底形石器を搬入して加工を進め、整形・小型化したものを遺跡外へ搬出した母岩と捉えられる。

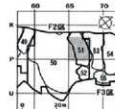
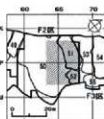
分布 Sb-50~52に散在し、主にSb-51・52に分布する。

母岩別資料 792、接合資料 3586 (図Ⅲ-625、図版 302-1)

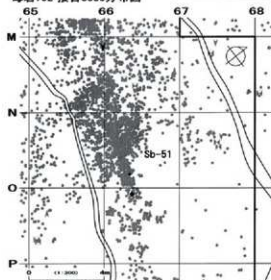
母岩791 接合3585分布図



地区名	区	目	種	作業者名・採取日(採取時刻)	品名	検出位置	数量
F2	791	3585	舟底形石器製作	3 A	-	4	7点 148.5g
計測方法(1) 器具使用 舟底形石器製作(舟底+幅+高) 検出時刻 検出時刻(区名・区+種+目)							
Sb-50-S1-S2	不明	不明	× 不明	× 不明	不明	不明	不明 × 5.0 × 5.5 cm
検出位置(区名)				採取位置(区名+種+目)			
BT:1							

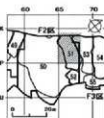
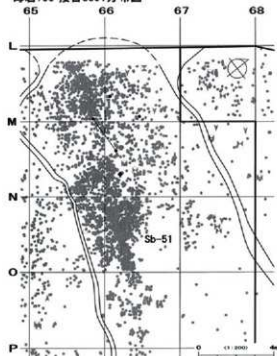


母岩792 接合3586分布図



地区名	区	目	種	作業者名・採取日(採取時刻)	品名	検出位置	数量
F2	792	3586	舟底形石器製作	3 A	-	4	8点 184.5g
計測方法(1) 器具使用 舟底形石器製作(舟底+幅+高) 検出時刻 検出時刻(区名・区+種+目)							
Sb-51	舟底	不明	× 不明	× 不明	不明	不明	7.0 × (5-10) × 8.8 cm
検出位置(区名)				採取位置(区名+種+目)			
BT:2, RP:1							

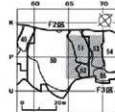
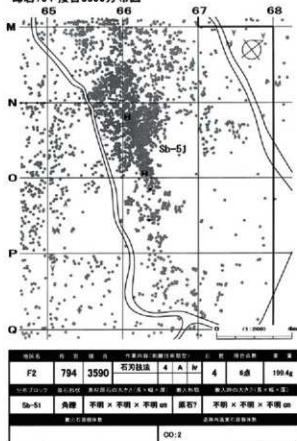
母岩795 接合3591分布図



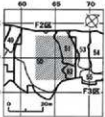
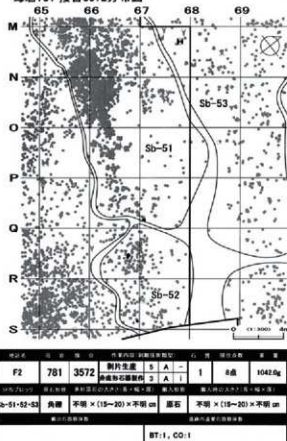
地区名	区	目	種	作業者名・採取日(採取時刻)	品名	検出位置	数量
F2	795	3591	舟底形石器製作	S E	-	4	7点 346.5g
計測方法(1) 器具使用 舟底形石器製作(舟底+幅+高) 検出時刻 検出時刻(区名・区+種+目)							
Sb-51	舟底	不明	× 不明	× 不明	不明	不明	不明 × 不明 × 不明 cm
検出位置(区名)				採取位置(区名+種+目)			
BT:1, CC:1, (同一層位 OD:1)							

図Ⅲ-625 F2区(63) 舟底形石器製作・石刃技法・剥片生産関連写真真掲載資料(1)

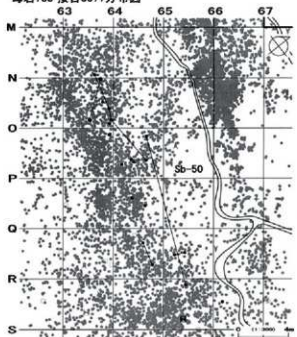
母岩794 接合3590分布図



母岩781 接合3572分布図



母岩783 接合3577分布図



図III-626 F2区の石器(64) 舟底形石器製作・石刃技法・剥片生産関連写真掲載資料(2)

母岩別資料 792 は接合資料 3586 のみで構成され、総点数は 5 点、総重量は 184.5 g である。小型舟底形石器石器群の母岩である。

素材 153 は接合資料 3586 で、5 点 (5 個体) が接合している。石質は黒曜石 4 で、角礫から得られた分割礫を素材とし、分割礫の状態で遺跡内に搬入したと考えられる。

剥離工程 II a 類舟底形石器を製作した資料で、剥離技術類型は 3A 類に分類される。分割面を甲板面に設定し、下縁部を厚く取り込む縦長剥離を甲板面から両側面に加えて自然面と高さを除去している。また、側面から甲板面への剥離も観察される。154 は側面調整の剥片を素材として製作された舟底形石器である。155 は核個体の舟底形石器で、粗い加工の段階で遺棄されている。

分布 Sb-51 西部から南西部の遺物集中範囲内に分布している。

母岩別資料 795、接合資料 3591 (図 III-625、図版 302-3・図版 303-1)

母岩別資料 795 は接合資料 3591 および非接合剥片 1 点と石核 1 点で構成され、総点数は 9 点、総重量は 397.5 g である。小型舟底形石器石器群の母岩である。

素材 158 は接合資料 3591 で、7 点 (6 個体) が接合し、重量は 346.6g である。石質は黒曜石 4 で、角礫を素材とし、原石の状態で遺跡内に搬入したと考えられる。

剥離工程 平坦打面を作出して厚手の剥片剥離を行い、また打面作出剥片を素材として平坦打面・頭部調整の石刃技法が行われている。剥離技術類型は 5E 類と 4Aiv 類に分類している。161 は本体の石核から剥離された剥片を素材とした個体で、腹面を甲板面に設定して粗い側面調整を行い、舟底形石器 162 を製作している。打面作出剥片素材の個体 159 は腹面を石核打面とし、長さ 6cm 前後の石刃を剥離したと観察できる。160 は残核である。

分布 Sb-51 西部の遺物集中範囲北側にややまとまって分布している。

母岩別資料 794、接合資料 3590 (図 III-626、図版 302-2)

母岩別資料 794 は接合資料 3590 および非接合剥片 1 点で構成され、総点数は 7 点、総重量は 212.0 g である。小型舟底形石器石器群の母岩である。

素材 156 は接合資料 3590 で、6 点 (6 個体) が接合し、重量は 199.4g である。石質は黒曜石 4 で、角礫を素材とし、原石の状態で遺跡内に搬入したと考えられる。

剥離工程 自然面打面から軽微な頭部調整を加えて石刃・縦長剥片を剥離した資料で、剥離技術類型は 4Aiv 類に分類している。接合状態に先行して、右側面に背部からの横方向の大型剥離を加え自然面を除去している。以降は接合資料の内容で、上設打面から厚手の剥離が行われ、ヒンジ発生後は横方向の作業面整形剥離が加えられている。さらに打面転移して下方からの剥離が行われている。得られた縦長剥片を素材として剥片剥離が行われている。157 は残核で、破損により小型化している。

分布 Sb-51 南西部遺物集中範囲から東側の N・O66 区へ分布している。

母岩別資料 781、接合資料 3572 (図 III-626、図版 303-2)

母岩別資料 781 は接合資料 3572 のみで構成され、総点数は 8 点、総重量は 1,042.0 g である。

素材 163 は接合資料 3572 で、8 点 (8 個体) が接合している。石質は黒曜石 1 で角礫を素材とし、原石の状態で遺跡内に搬入したと考えられる。

剥離工程 打面と作業面を固定して一定方向に縦長志向の剥離を行った資料で、剥離技術類型は 5A 類に分類している。また、打面作出剥片を素材として舟底形石器 (個体 A) が製作されている。作業は以下の内容で進行している。① 裏面に大型剥離を加え、さらに打面作出を行う。これにより背部平坦面が形成される。② 背部平坦面から側面へ横方向の大型剥離を加えている。母型整形とも捉えられる。③ 正面側作業面で剥片剥離を行う。以上だが、②の背部平坦面から側面調整を行う工程は、

有舌尖頭器石器群の母岩に認められる内容であり、当該石器群の可能性が指摘できる。

164は個体A接合状態、165は製作石器である。個体Aは背面へ急角度の粗い剥離が加えられているため舟底形石器製作と判断したが、削器などの可能性もある。166は残核である。

分布 Sb-51-53に散在するが、個体Aなどを主体としてSb-52周辺に小規模にまとまる。

母岩別資料783、接合資料3577(図Ⅲ-626、図版304・305-1)

母岩別資料783は接合資料3577、折れ接合資料62532・62533および非接合剥片7点で構成され、総点数は46点、総重量は4,661.1gである。

素材 167は接合資料3577で、35点(15個体)が接合し、重量は4,546.4gである。石質は黒曜石1で、転礫を素材とし、粗割り原石の状態で遺跡内に搬入したと考えられる。

剥離工程 打面と作業面を固定して一定方向に縦長志向の剥離を行った資料で、剥離技術類型は5A類に分類している。作業は次の内容で進められている。①上面への平坦打面の作出と、正裏側面への粗割りで自然面を除去し、直方体状の石核168を形成する。②上部平坦打面から縦長志向の剥片剥離を行う。③石核背部や左右側面へ大型調整剥離を加えて石核の再整形を行うが、大きく折損が生じ遺棄されている。169は破損した残核である。

分布 Sb-50北西部から南東部の遺物集中範囲に分布している。

母岩別資料785、接合資料3580(図Ⅲ-627、図版306-1)

母岩別資料785は接合資料3580のみで構成され、総点数は9点、総重量は752.3gである。

素材 174は接合資料3580で、9点(5個体)が接合している。石質は黒曜石2で転礫を素材とし、粗割り原石の状態で遺跡内に搬入したと考えられる。

剥離工程 打面と作業面を固定して一定方向に縦長志向の剥離を行った資料で、剥離技術類型は5A類に分類している。裏面上部および上端部に剥離を加えて打面を作出する。節理割れが生じるが、そのまま正面側へ連続的に剥片剥離を行っている。剥片は大型打面で打瘤が発達する不定形のもので、ほとんど欠落がなく接合している。剥片には若干の二次剥離がみられる。

分布 Sb-51の中央、北西から南東にかけて散在している。

母岩別資料799、接合資料3595(図Ⅲ-627、図版306-2)

母岩別資料799は接合資料3595のみで構成され、総点数は8点、総重量は304.9gである。

素材 176は接合資料3595で、8点(6個体)が接合している。石質は黒曜石5で亜角礫を素材とし、原石の状態で遺跡内に搬入している。

剥離工程 打面と作業面を固定して一定方向に縦長志向の剥離を行った資料で、剥離技術類型は5A類に分類している。裏面側に平坦打面を作出し、正面側の自然面稜線に沿って小型不定形剥片の剥離を開始する。正面の自然面が除去されると軽微な頭部調整を伴う縦長志向の剥離に移行している。177は残核である。

分布 Sb-50の南東部S63・64区付近にまとまって分布している。

母岩別資料778、接合資料3569(図Ⅲ-627、図版305-2)

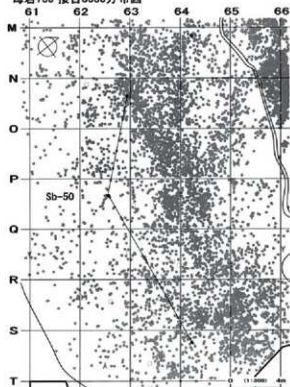
母岩別資料778は接合資料3569および非接合剥片4点と縦長剥片2点で構成され、総点数は22点、総重量は684.9gである。

素材 170は接合資料3569で、16点(14個体)が接合し、重量は662.3gである。石質は黒曜石1で角礫を素材とし、石核の状態で遺跡内に搬入している。

剥離工程 90°前後の打面転移を繰り返し残核がサイコロ状となるもので、剥離技術類型は5Di類に分類した。ある程度まとまった作業単位で打面と作業面を固定し、縦長剥片が連続剥離されている。

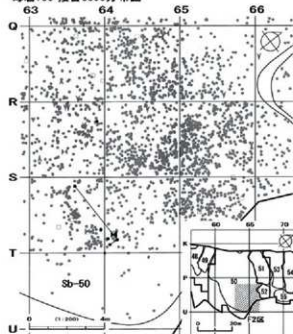
2 遺物

母岩785 接合3580分布図



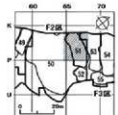
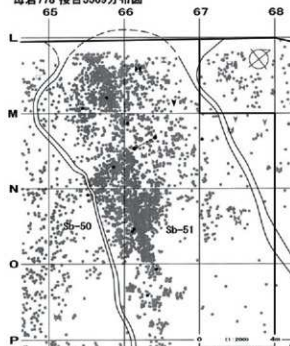
地区名	遺 跡 名	遺 物 名	内装内容・附属品種類	品 数	接合点数	重量		
F2	785	3580	剥片生産	5	A	2	9点	782.3g
<small>片厚70以下</small> 最大片厚 最大厚さ(最大片厚+幅+厚) 最大片径 最大内径(最大片厚+幅+厚)								
Sb-50	磁器	(10~13) × 9.4 × 9.6 cm	磁器片石	12.4 × 9.4 × 9.6 cm				
<small>製作工程詳細</small>								
遺跡内遺物位置関係図								
DO:1								

母岩799 接合3595分布図



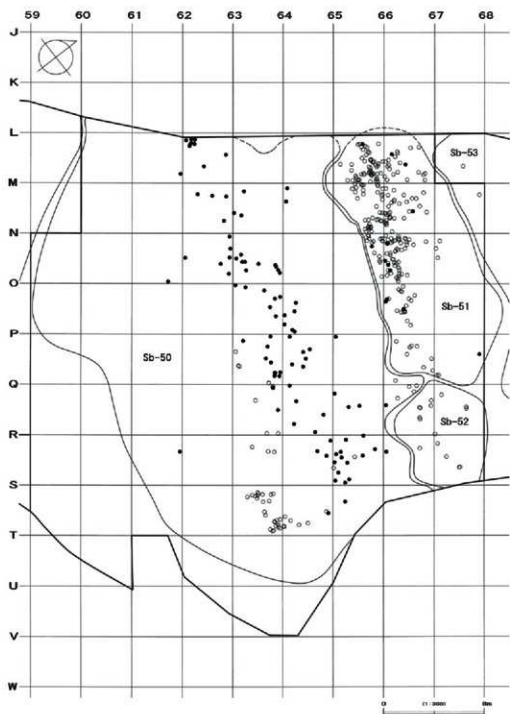
地区名	遺 跡 名	遺 物 名	内装内容・附属品種類	品 数	接合点数	重量		
F2	799	3595	剥片生産	5	A	5	8点	304.8g
<small>片厚70以下</small> 最大片厚 最大厚さ(最大片厚+幅+厚) 最大片径 最大内径(最大片厚+幅+厚)								
Sb-50	磁器片	12.0 × 9.2 × 4.5 cm	磁石	12.0 × 9.2 × 4.5 cm				
<small>製作工程詳細</small>								
遺跡内遺物位置関係図								
DO:1								

母岩778 接合3569分布図

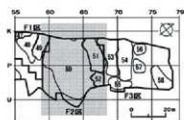


地区名	遺 跡 名	遺 物 名	内装内容・附属品種類	品 数	接合点数	重量			
F2	778	3569	剥片生産	5	D	I	1	15点	862.3g
<small>片厚70以下</small> 最大片厚 最大厚さ(最大片厚+幅+厚) 最大片径 最大内径(最大片厚+幅+厚)									
Sb-50-51	角礫	不明 × 不明 × 不明 cm	磁器	10.4 × 11.8 × 10.4 cm					
<small>製作工程詳細</small>									
遺跡内遺物位置関係図									
RF:1, DO:1									

図Ⅲ-627 F2区の石器(65) 舟底形石器製作・石刃技法・剥片生産関連写真真掲載資料(3)



平塚打面・原部調整母岩 (4A類) ○
 調整打面・原部調整母岩 (4C類) ●



図Ⅲ-628 F2区の石器(66) 石刃技法母岩別接合資料分布図

171は縦長剥片が剥離された後の状態で、石核が小型化している。作業後半は厚手の小型剥片などが剥離され、二次加工ある剥片(172)の素材となっている。173は残核である。ヒンジが激しく発生し、打面となった複数の面には顕著なパンチ痕が認められる。

分布 Sb-51西部から南西部の遺物集中範囲内に分布している。

石刃技法関連資料の分布状況について

図Ⅲ-628に石刃技法に関連する母岩別接合資料の分布状況を示した。上述の通り、Sb-50は有舌尖頭器石器群、Sb-51・52は小型舟底形石器石器群を主体とするブロックと認識される。

Sb-50は4C類(調整打面・頭部調整)の母岩で母型を形成するものが主体的に分布する。Sb-50南部には4A類(平坦打面・頭部調整)がまとまっているがこれは母岩784(図Ⅲ-622・623)の分布で、母型を形成し長さ14cm程度の石刃を剥離する特徴がある。対してSb-51・52は4A類の分布が大半を占め、その工程に舟底形石器製作を伴うものが含まれる。4A類の母岩は茶系の角礫素材で母型形成を行わない特徴がみられる。

上述したような石器ブロック毎の内容の差異は、主体的に分布する石器群の石刃製作技術の特徴の違いとして認識することが出来る。

(8) F3区(Sb-53～58)の石器

① 石器ブロックの分布

ブロック間接合状況(図Ⅲ-629)

F3区は調査区北東端に位置し、南西側をF2区と接している。ブロック範囲の設定はⅢ章2節1項で説明したように、密度分布、組成器種の分布、接合資料の分布を根拠としているが、全体的に散発的な分布のため、地形傾斜方向に広い範囲を括る結果となった。なお、図Ⅲ-629の折れ接・剥離面接合資料の接合線を表示した分布図であるが、隣接区域に分布する遺物であっても当該区域遺物と接合関係を有する資料については遺物点・接合線を表示している。

各ブロックともブロック内接合を主体とするが、接合数は他区域に比べ非常に少数で、母岩別接合資料として整理したものは4個体に留まった。ブロック間接合はSb-53・55間、Sb-54・58間、Sb-56・58間に認められ、特にSb-58が関係する接合距離は長く、25mを越えている。

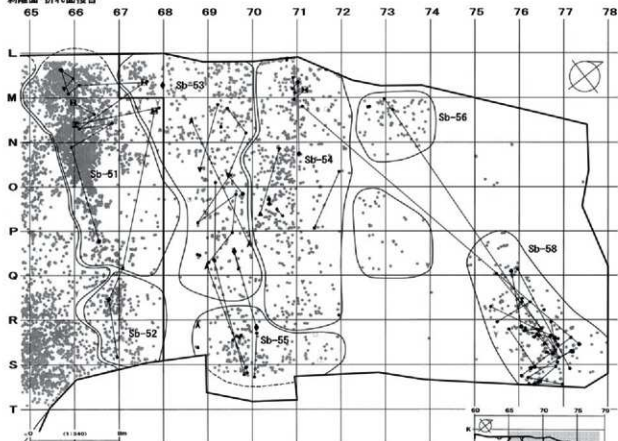
後述するようにF3区では白滝I群、ホロカ型彫器を伴う石器群、小型舟底形石器石器群の三つの石器群が認められる。石器群ごとの分布状況は、白滝I群がSb-53の西部に、ホロカ型彫器を伴う石器群がSb-54・55・58に、小型舟底形石器石器群がSb-53北部に、特徴的石器がまとまっている。但し接合数が少ないことや一つの石器ブロックに複数の石器群が分布する状況などから、石器群の判別が困難な遺物が多数存在する。

Sb-53(図Ⅲ-630・631)

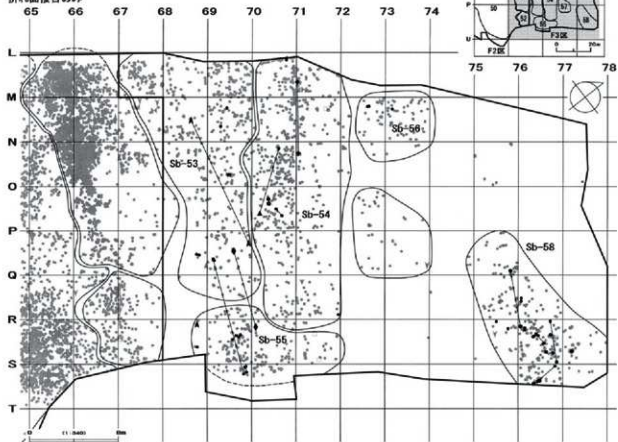
Sb-53はF3区西部に位置し、規模は230×111m、面積は172.3㎡を測る。出土総点数は539点・9,784.6gで、その内剥片が508点・94.2%、石刃・縦長剥片が8点・1.5%を占める。また剥片の16点(3.1%)、縦長剥片の1点に剥離面接合関係がみられる。遺物はブロック全体に散発的に分布し、集中部などは見出せない。

主な出土遺物には尖頭器・両面調整石器、掻器、削器、二次加工ある剥片、石核がある。この内ブロック西部から出土した尖頭器Ⅱ類(5)や削片(24)、平坦打面・頭部調整の石核(36)などは小型舟底形石器石器群に属するものと考えられる。同じくブロック西部にまとまる二次加工ある剥片(20-23)と石

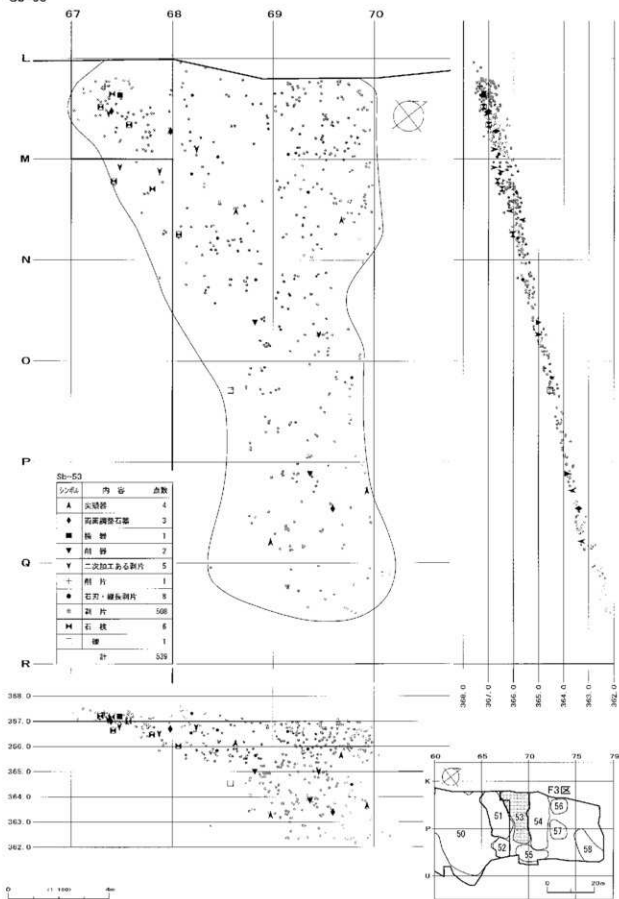
割離面・折れ面接合



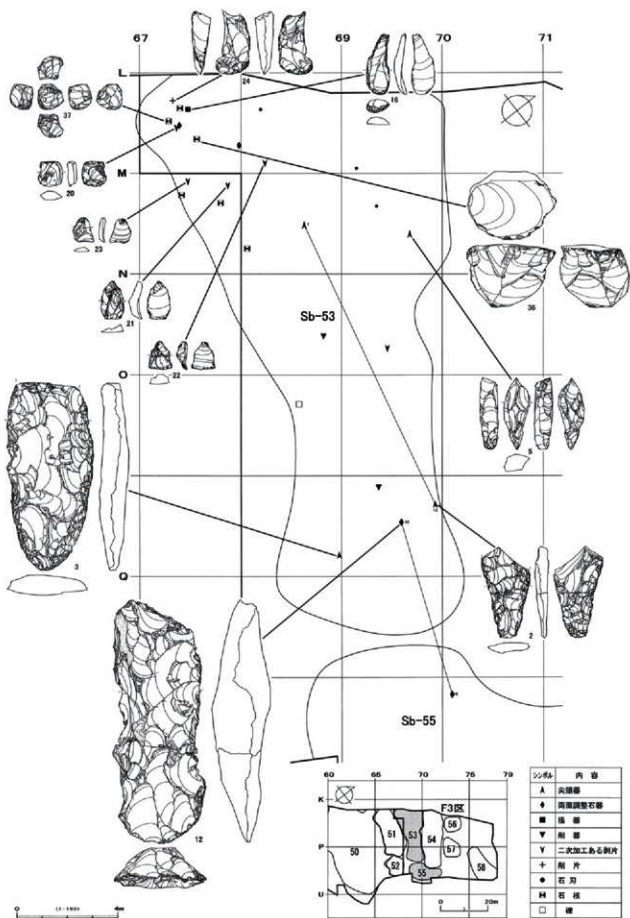
折れ面接合のみ



図Ⅲ-629 F3区 接合資料分布図



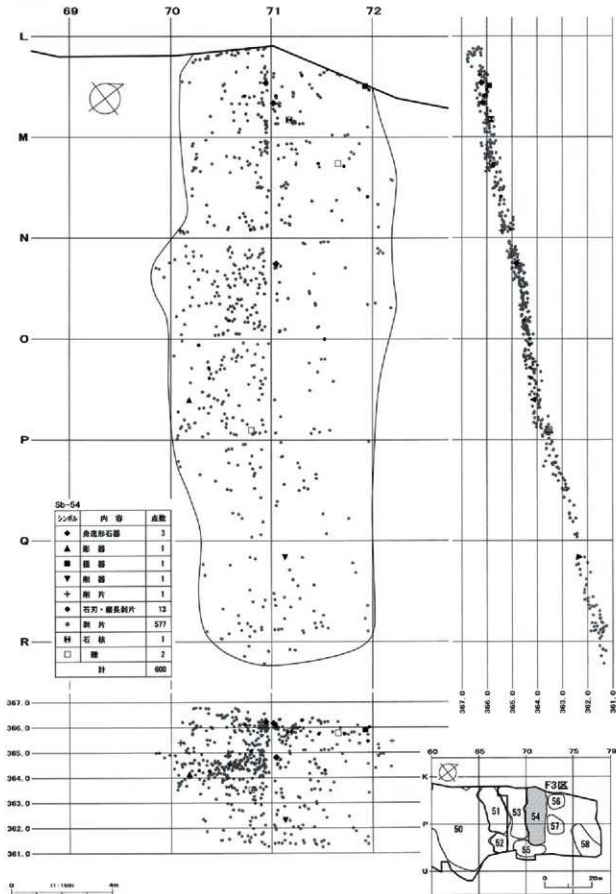
図Ⅲ-630 Sb-53 分布状況(平面・断面図)



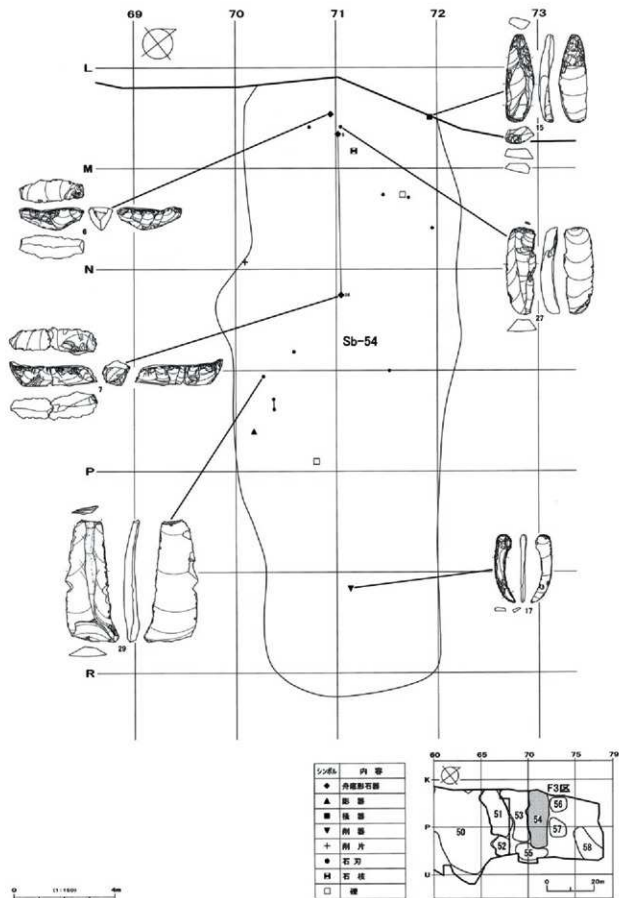
図III-631 Sb-53 出土遺物の分布

2 遺物

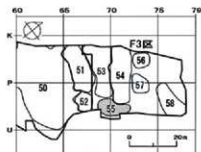
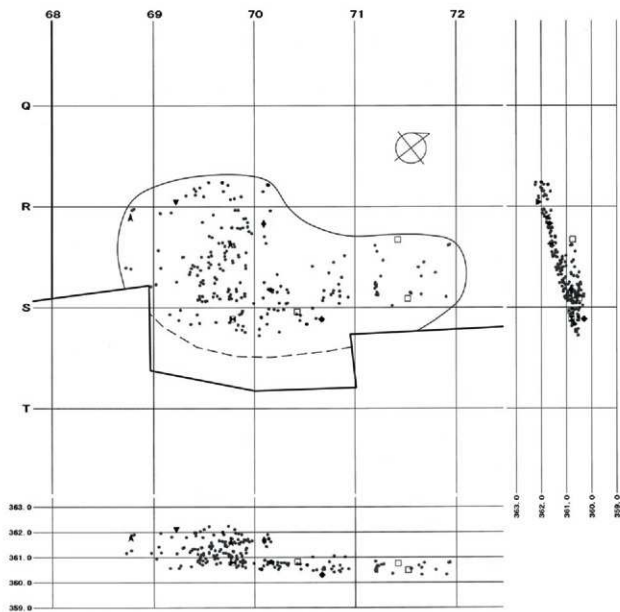
Sb-54



図Ⅲ-632 Sb-54 分布状況(平面・断面図)



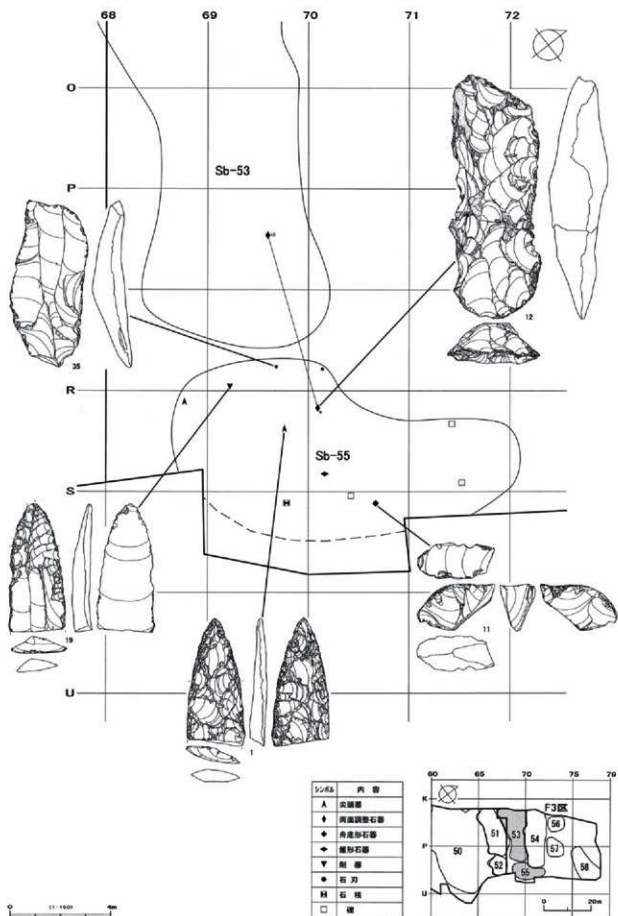
図Ⅲ-633 Sb-54 出土遺物の分布



Sb-55

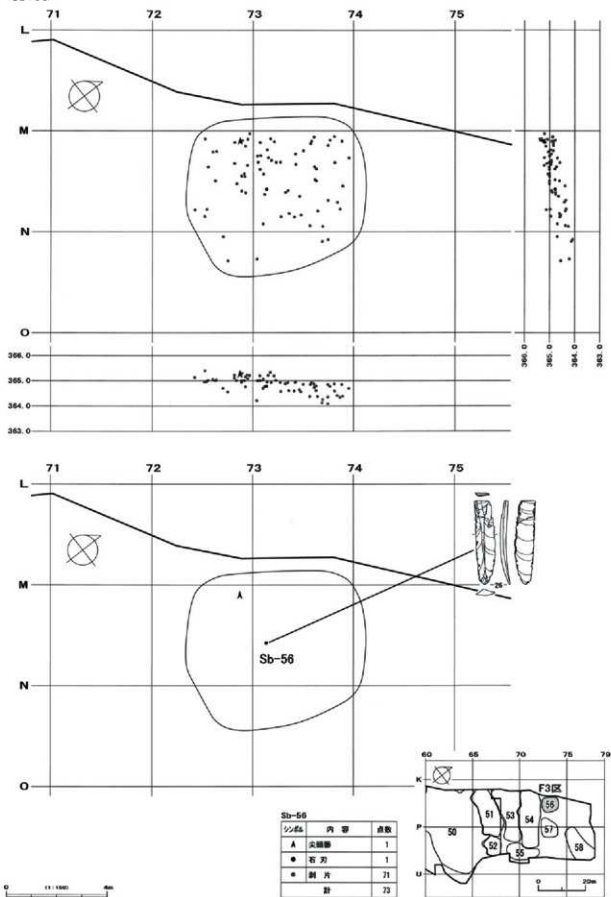
Symbol	内容	点数
A	尖頭器	2
◆	両面打製石器	1
●	片打製石器	1
◀	磨石石器	1
▼	削 器	1
●	石刀・磨石削片	4
●	削 片	208
■	石 杖	1
□	雜	3
	計	222

図Ⅲ-634 Sb-55 分布状況(平面・断面図)



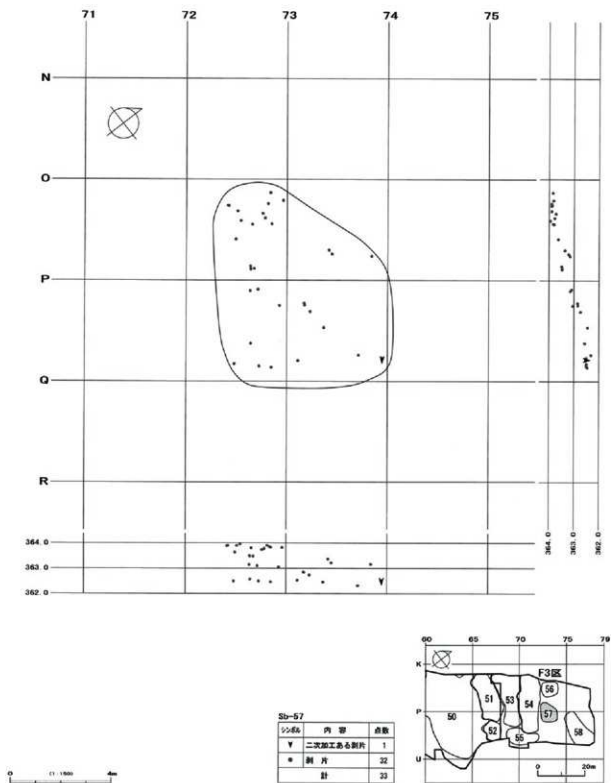
図Ⅲ-635 Sb-55 出土遺物の分布

Sb-56



図Ⅱ-636 Sb-56 分布状況(平面・断面図)

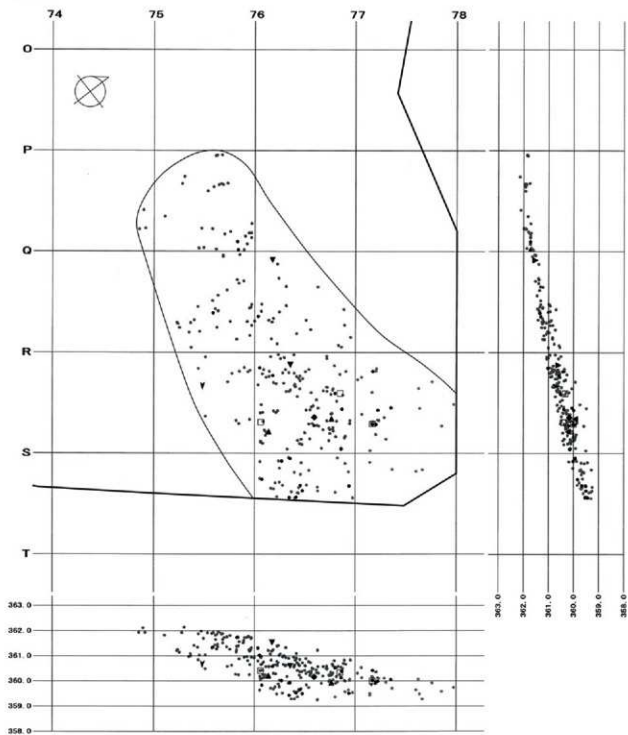
Sb-57



図Ⅲ-637 Sb-57 分布状況(平面・断面図)

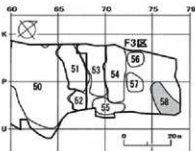
2 遺物

Sb-58

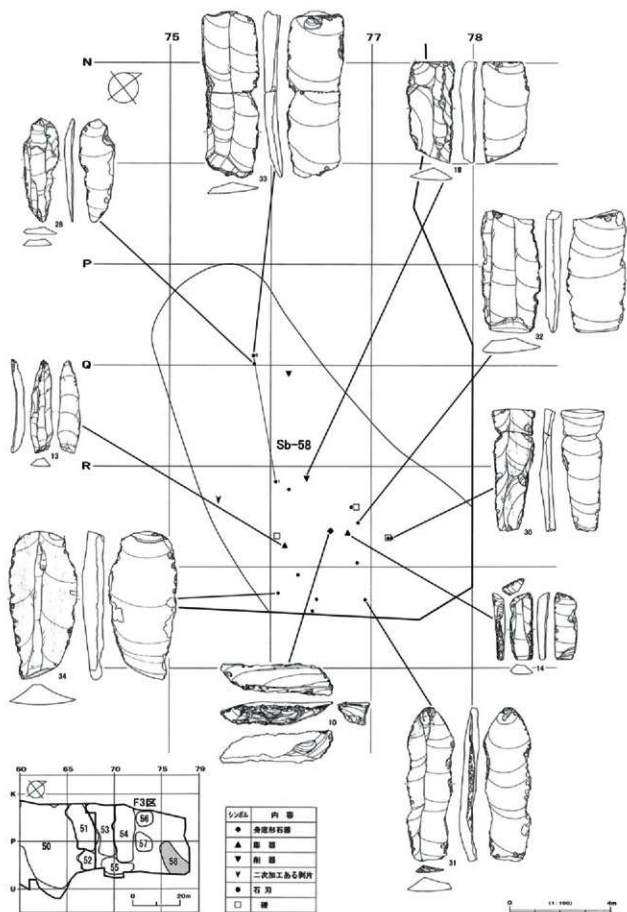


Sb-58

シンボル	内容	点数
●	伴埋跡石群	1
▲	部 群	2
▼	削 群	2
Y	二次加工欠芯割片	1
●	石片・硬頁割片	23
●	割 片	243
□	礎	3
	計	275



図Ⅲ-638 Sb-58 分布状況(平面・断面図)



図Ⅲ-639 Sb-58 出土遺物の分布

核(37)は白滝I群のものとみられる。

Sb-54(図Ⅲ-632・633)

Sb-54はF3区中央部付近に位置し、規模は24.6×9.6m、面積は188.8㎡を測る。出土総点数は600点・3,488.1gで、その内剥片が577点・96.2%、石刃・縦長剥片が13点・2.2%を占める。また剥片の8点(1.4%)に剥離面接合関係がみられた。遺物はブロック全体に散発的に分布し、集中部などは見出せない。

主な出土遺物には舟底形石器Ⅱa類、彫器、搔器、削器、石核がある。また、石刃には大型で背面に線状痕を有すものが認められる。小型舟底形石器石器群やホロカ型彫器を伴う石器群が混在する可能性が指摘できる。

Sb-55(図Ⅲ-634・635)

Sb-55はF3区南東部の段丘崖縁辺に位置し、規模は13.8×7.1m、面積は68.5㎡を測る。出土総点数は222点・3,474.1gで、その内剥片が208点・93.7%、石刃・縦長剥片が4点・1.8%を占める。また剥片の3点(1.4%)に剥離面接合関係がみられる。遺物はブロック全体に散発的に分布し、集中部などは見出せない。

主な出土遺物には尖頭器・両面調整石器、舟底形石器、削器、石核などがある。この内ブロック西部から出土した削器(19)や石刃(35)はホロカ型彫器を伴う石器群に属するものと考えられる。

Sb-56(図Ⅲ-636)

Sb-56はF3区北部に位置し、規模は7.1×6.3m、面積は38.5㎡を測る。出土総点数は73点・387.5gで、その内剥片が71点・97.3%を占め、剥片の3点(4.2%)に剥離面接合関係がみられる。その他の出土遺物には石刃1点、尖頭器1点が認められる。遺物はブロック全体に散発的に分布し、集中部などは見出せない。出土遺物は石器群判別の可能な特徴的なものが乏しく、主体的な石器群は不明である。但し、ホロカ型彫器を伴う石器群を主体とするSb-58とのブロック間接合関係が確認されている。

Sb-57(図Ⅲ-637)

Sb-57はF3区中央部付近に位置し、規模は9.4×7.3m、面積は46.9㎡を測る。出土総点数は33点・155.6gで、その内剥片が32点・97.0%を占めるが、剥離面接合は確認されなかった。遺物はブロック全体に散発的に分布し、集中部などは見出せない。出土遺物は石器群特定の可能な特徴的なものに乏しく、主体的な石器群等は不明である。

Sb-58(図Ⅲ-638・639)

Sb-58はF3区北東部の段丘崖縁辺に位置し、規模は16.6×8.3m、面積は104.8㎡を測る。出土総点数は275点・8,053.6gで、その内剥片が243点・88.4%、石刃・縦長剥片が23点・8.4%を占める。また剥片の25点(10.3%)、石刃・縦長剥片の5点(21.7%)に剥離面接合関係がみられた。遺物はR76区を中心にやや散発的に分布している。

主な出土遺物には舟底形石器、彫器、削器があり、形態的な特徴からホロカ型彫器を伴う石器群に属するものと考えられる。

② 出土石器(表Ⅲ-1-7)

出土した遺物は表土・Ⅱ層をあわせ、尖頭器(I類9点・Ⅱ類2点)、両面調整石器(I類4点)、舟底形石器(Ⅱa類4点・Ⅱb類3点・Ⅱ類1点)、彫器(4点)、搔器(2点)、削器(7点)、錐形石器(1点)、二次加工ある剥片(9点)、石刃(31点)、縦長剥片(19点)、石核(8点)、削片(3点)、剥片(5,566点)、

原石(1点)、礫(9点)がある。総点数は5,683点、総重量は34,430.7gである。層位・取り上げ方法別の内訳はⅡ層点取り遺物1,754点・25,526.1g、表土一括遺物1,321点・6,781.2g、Ⅱ層一括遺物2,607点・2,115.7g、ボサ遺物1点・7.7gである。

F3区は出土遺物の内容から複数の石器群が混在する区域と判断される。そのため、分布状況、接合状況、石器形態、製作技術等から検討を行い石器群の分離に努めた。結果まとまったものとして、白滝Ⅰ群(小型不定形石器石器群)、ホロカ型彫器を伴う石器群、小型舟底形石器石器群の三石器群への区分が可能となった。但し、剥片など技術形態的特徴の乏しいもの、石器ブロック外のもの、非母岩・非接合資料については、石器群分離の困難なものが多数存在する。

石器群別で主な器種組成をみると、白滝Ⅰ群は二次加工ある剥片(裏面微細加工石器含む)・石核など、ホロカ型彫器を伴う石器群は尖頭器・搔器・削器・石刃・石刃核など、小型舟底形石器石器群は尖頭器・舟底形石器・削器・錐形石器・石刃・石刃核・石核などが認められる。

石器石材には黒曜石(5,677点)、頁岩(1点)、めのう(2点)、碧玉(1点)、泥岩(2点)がみられる。黒曜石が圧倒的に多く、99.9%以上を占める。黒曜石を石質細分すると、黒曜石1(411点・22.9%)、黒曜石2(14点・0.8%)、黒曜石3(296点・16.5%)、黒曜石4(824点・46.0%)、黒曜石5(247点・13.8%)の割合となる。括弧内の比率は石質を確認した資料数を分母に算出している。石器群別で主体となる黒曜石の石質細分をみると、白滝Ⅰ群は黒曜石1(黒曜石1:5点・100%)、ホロカ型彫器を伴う石器群は黒曜石4(黒曜石4:43点・100%)、小型舟底形石器群は黒曜石4(黒曜石3:3点・27.3%、黒曜石4:8点・72.7%)であった。

石器群ごとの分布状況は、白滝Ⅰ群がSb-53の北西部に、ホロカ型彫器を伴う石器群がSb-55・58、小型舟底形石器石器群がSb-54に、まとまりが認められる。

尖頭器(図Ⅲ-640-1~図Ⅲ-641-5、図版307)

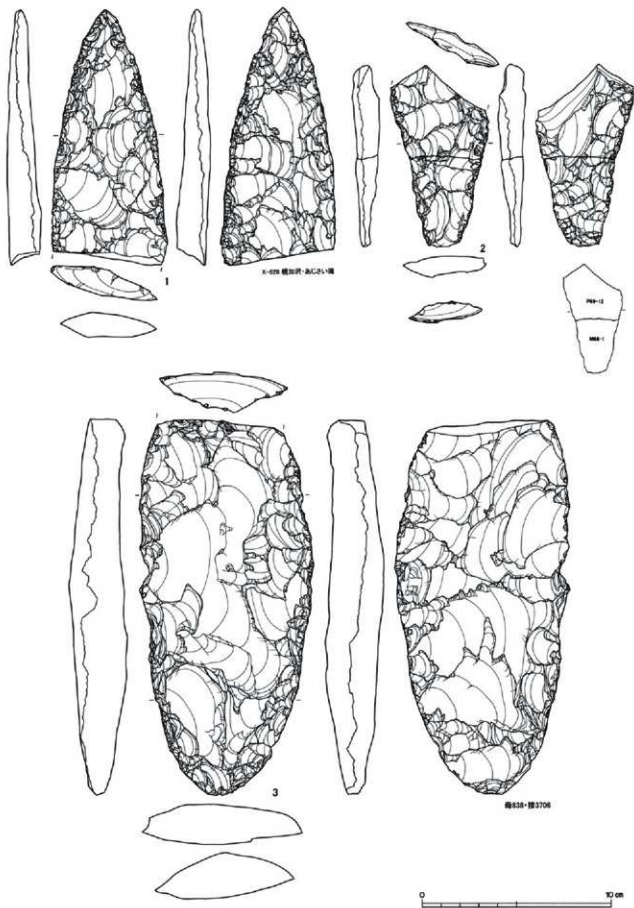
尖頭器は表土・Ⅱ層を含め11点・8個体が出土し5個体を図示した。類型別の出土点数は、Ⅰ類(舌部・削片剥離のないもの)が9点・7個体、Ⅱ類(削片剥離があるもの)が2点・2個体である。石材は全て黒曜石で、Ⅰ類は黒曜石1・3・4、Ⅱ類は黒曜石3・4が使用されている。特に黒曜石3・4の茶色の石はSb-53、黒曜石1はSb-55・56にのみ分布し、石質により分布傾向が異なる。剥離面接合関係を有するものは2個体あり、いずれも両面調整石器で遺跡に搬入し器体調整を進めたものである。また、産地分析をⅠに対して行い、「幌加沢・あじさい滝」の判定結果を得ている。

1~3はⅠ類尖頭器である。1は分布状況からホロカ型彫器を伴う石器群のものと考えられ、全体平面形状はやや細身の木葉形と推測される。2は並行剥離縁の調整によって器体を扁平に加工している。3は厚みを残す大型の尖頭器で、上部折れ面から正面側へ再加工が加えられている。

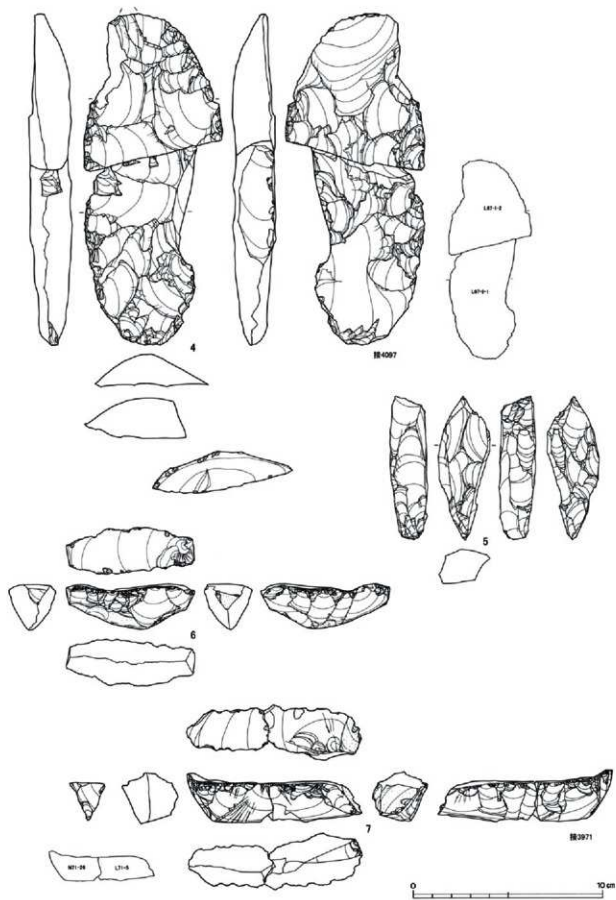
4・5はⅡ類尖頭器である。4はⅡ類とⅠ類の尖頭器が折れ接合したものの。折断後、左側縁側に縁辺と折れ面から加工を施し、最終的に右側面で削片剥離を行ったようである。5は上下方向から交叉状に削片剥離している。右側面が最終作業面で打面・作業面の角度が鈍角し、またヒンジを起こしている。右側面下部には風化による摩耗が部分的範囲に観察される。

舟底形石器(図Ⅲ-641-6~図Ⅲ-642-11、図版308)

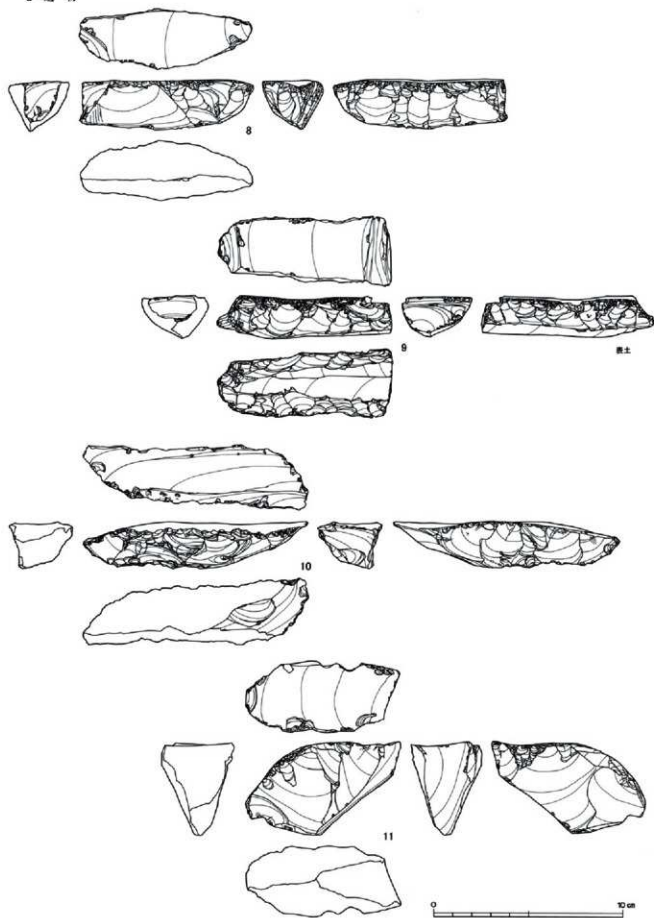
舟底形石器は表土・Ⅱ層を含め8点・7個体が出土し12個体を図示した。器種類型は全てⅡ類(大型のもの)で、Ⅱa類(加工が粗く15cm以下、主に10cm以下)・Ⅱb類(甲板面・側面が平坦で10cm以上、主に15cm以上)とも3個体ずつ出している。Ⅱa類は小型舟底形石器石器群の資料、Ⅱb類は分布からホロカ型彫器を伴う石器群の資料と考えられる。石材は全て黒曜石で、黒曜石3・4の茶系が大半を占める。剥離面接合関係を有するものは1個体(Ⅱa類)で側面調整剥片が接合している。舟底形石



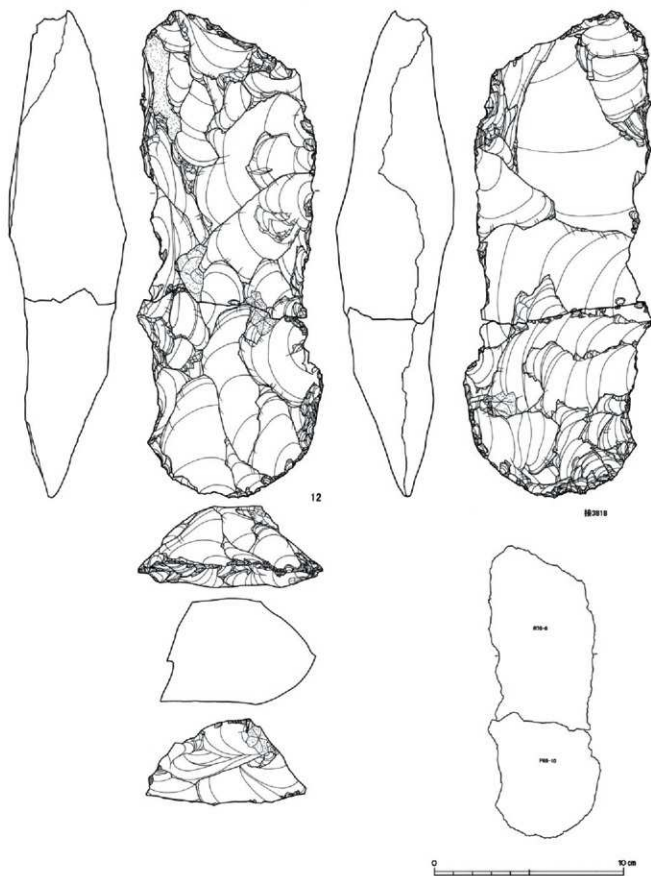
図Ⅲ-640 F3区 of 石器(1) 尖頭器



図Ⅲ-641 F3区の石器(2) 尖頭器・舟底形石器

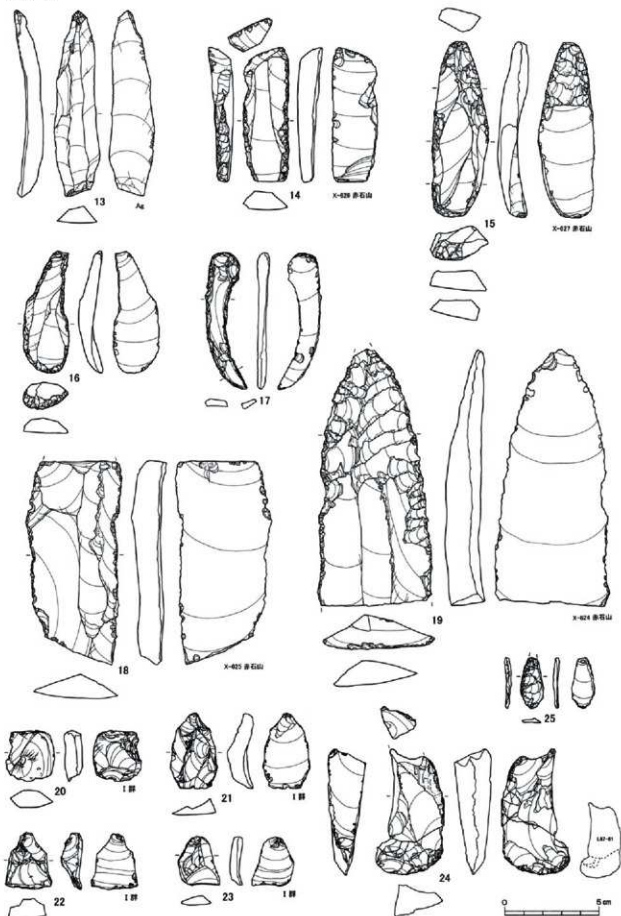


図Ⅲ-642 F3区の石器(3) 舟底形石器



図Ⅲ-643 F3区 of 石器(4) 両面調整石器

2 遺物



図Ⅲ-644 F3区の石器(5) 形器・掻器・削器・二次加工ある剥片・削片

器は全て製品で搬入されたと考えられる。舟底形石器の分布はIIa類がSb-54、IIb類がSb-55・58に主に認められる。

6・7はIIa類である。7は遺跡内で加えられた左側面中央部の剥離により破損している。

8~9はIIb類である。素材は8が分割による剥片、9が石刃、10が横長剥片である。8の甲板面は平坦であり密なリングが観察される。8・9の素材面、特に甲板面には細かな傷が顕著に観察され、9の甲板面には長軸方向に走る線状痕が無数に認められる。また、9は調整剥離面の光沢が素材面よりも強く、二重パティナとなっている。

10・11はII類(未細分)である。10は素材背面を甲板面、腹面を下縁側に位置させている。11は高さ5cmを超える大型品で、粗い剥離の段階で破損している。

両面調整石器(図Ⅲ-643-12、図版308)

両面調整石器は表土・II層を含め5点・5個体が出土し1個体を図示した。石材は黒曜石が4点、めのうが1点である。剥離面接合関係は2個体に認められ、いずれも調整剥片が1点接合する程度で、製品で搬入されたものと考えられる。非掲載資料の2個体は粗い加工による破損品で、尖頭器製作過程で作業が困難となり遺棄されたことが考えられる。

12は裏面に素材面とみられる大型剥離面があり、剥片素材の可能性がある。器体は全体的に粗い大型剥離で加工され、分厚く器面の凹凸も激しい。しかし下部末端は平坦剥離・小型剥離で整った縁辺が形成され、下半が鋭角に傾斜する側面形態も認められる。斧形石器とも捉えられる。

彫器(図Ⅲ-644-13・14、図版309)

彫器はII層から4点・4個体が出土し2個体を図示した。石材は黒曜石4点とめのう1点がみられる。剥離面接合関係を有するものはなく、全て搬入品と考えられる。彫刀面作出状況は交叉型、左斜刃がある。また産地分析を14に対して行い、「赤石山」の判定結果を得ている。

13はめのう製の石刃素材で右側縁上端の調整打面から左側縁上端に彫刀面が作出されている。14はホロカ型彫器である。彫刀面は左側縁から腹面側にまで及んでいる。彫刀面作出打面は両面調整されている。また側縁調整は急角度である。

掻器(図Ⅲ-644-15・16、図版309)

掻器はII層から2点・2個体が出土し全て図示した。石材は全て黒曜石1である。剥離面接合をするものはなく搬入品と考えられる。素材は2点とも石刃である。産地分析を15に対して行い、「赤石山」の産地分析結果を得た。

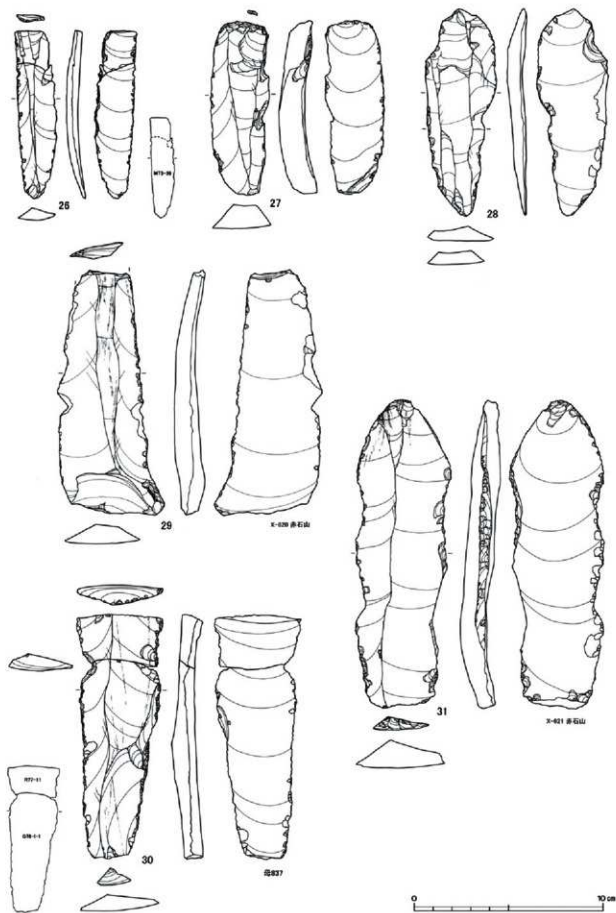
15は右側面に桶状剥離が認められ、彫器上端部に刃部調整を加え掻器へ転用したのと考えられる。基部は平坦剥離により両面調整されるが素材打面を残置しており、尖頭形にはしていない。また背面右側面側には、基部調整面中央部と下半部の素材稜線上の2か所の範囲に、まとまった敲打痕が観察される。16はやや器体がねじれた素材を使用し上半部側縁を急角度に基部調整している。

削器(図Ⅲ-644-17~19、図版309)

削器は表土・II層を含め7点・7個体が出土し3点を図示した。石材は全て黒曜石である。剥離面接合関係を有するものは1点で、縦長剥片と接合している。ホロカ型彫器を伴う石器群とみられる18・19について産地分析を行い、いずれも「赤石山」の判定結果を得ている。

17は剥片素材のもの。内外湾する両側縁に急角度の調整が加えられている。18・19は幅5cm前後の大型石刃が素材に使用されている。18は両側縁に急角度の小型剥離調整が連続的に加えられている。19は両側縁上部に斜並行剥離が施されるもので、尖頭形に整形されている。

二次加工ある剥片(図Ⅲ-644-20~23、図版309)



図Ⅲ-645 F3区の石器(6) 石刃

二次加工ある剥片は表土・Ⅱ層を含め9点・9個体が出土し4個体を図示した。石材は黒曜石1・3で、黒曜石1が多い。剥離面接合するものは1個体である。素材は石刃・剥片があり、大きさ・形状なども多様である。二次加工ある剥片で石器群が判別できたものは白滝Ⅰ群の4個体で、全て図示した。

20~23は白滝Ⅰ群である。20は「ボジ・ボジ」の剥片を素材とし、腹面側にバルブの発達した粗い剥離を加えている。或いは石核に分類できる資料である。21~23は背面側の縁辺に微細剥離が連続するもので、21は右側縁、22・23は撥形を呈する剥片の末端縁辺に剥離が観察できる。

削片(図Ⅲ-644-24・25、図版309)

削片はⅡ層から3点・3個体が出土し2個体を図示した。石材は全て黒曜石である。形態から彫器削片(1個体)と尖頭器削片(2個体)が認められ、後者は小型舟底形石器群の資料と考えられる。剥離面接合関係を有するものは確認できなかった。

24は彫器削片である。背面側には彫器母型段階の連続的な調整が認められ、これらは並行剥離の可能性もある。また素材腹面と彫器腹面との角度は130°前後で、背面側に傾く彫刀面が作出されたと理解できる。24はホロカ型彫器の削片の可能性もある。25は尖頭器削片で、尖頭器の縁辺を取り込んで剥離されたもの(ファーストスボール)である。

石刃(図Ⅲ-645-26~図Ⅲ-647-35、図版310・311)

石刃は表土・Ⅱ層を含め31点・28個体が出土し、10個体を図示している。石材は黒曜石27個体、頁岩1個体で大半を黒曜石が占め、特に茶色の黒曜石3・4が多い。剥離面接合関係を有するものは2個体で、いずれも2点程度が接合する小規模な内容である。

石刃の大きさは長さ10cm程度・幅3cm以下の小型のものと、長さ15cm超・幅5cm前後の大型のものがみられる。後者はSb-55・58に分布し、ホロカ型彫器を伴う石器群の資料と考えられる。また大型石刃の背面体部には、石刃剥離方向に走る特徴的な鈍い線状痕が認められる。

線状痕についてはホロカ沢Ⅰ遺跡B地区(坂本 2010)、旧白滝15遺跡B・C区(直江 2012)でも確認され、詳細な観察が行われている。F3区石刃に認められる線状痕の特徴を述べると、①数条、多いものでは8条ほどのまとまりで認められる、②線状痕の幅は0.5~1mm未満程度で、細かな擦痕が集合して形成されている、③破線状に認められることが多い、④数条のまとまりとしての長さは15cmを超えるものもある、⑤同じまとまりの中でも若干方向の異なる線状痕が混在する、などがあげられる。また、ホロカ沢Ⅰ遺跡、旧白滝15遺跡で認められた頭部周辺の擦痕は、打面部を残す資料の出土がなく、明確には確認できていない。

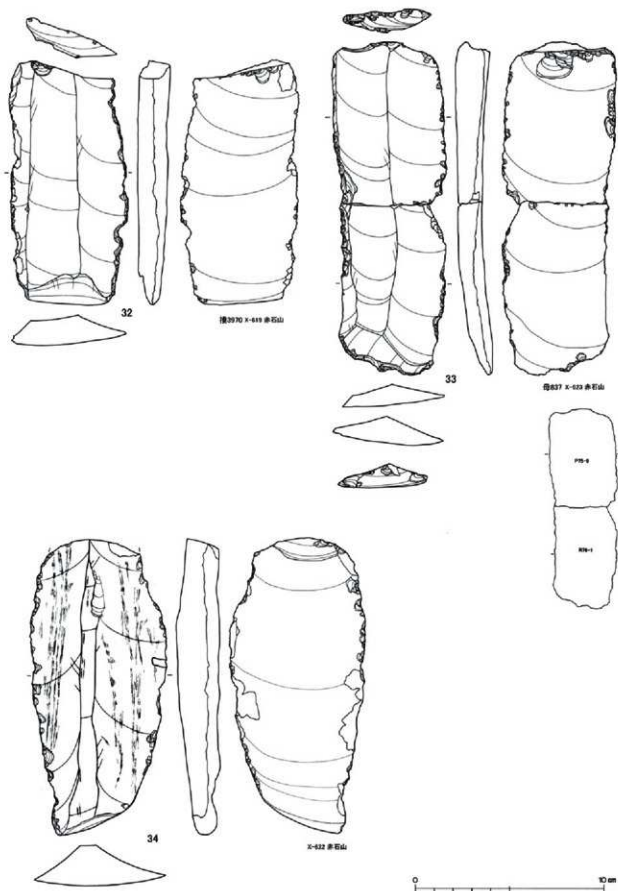
産地分析を、ホロカ型彫器を伴う石器群の大型石刃5点について行い、いずれも「赤石山」の判定結果を得ている。

26・27は幅3cm以下の小型石刃である。27は単剥離打面・頭部調整の特徴がある。

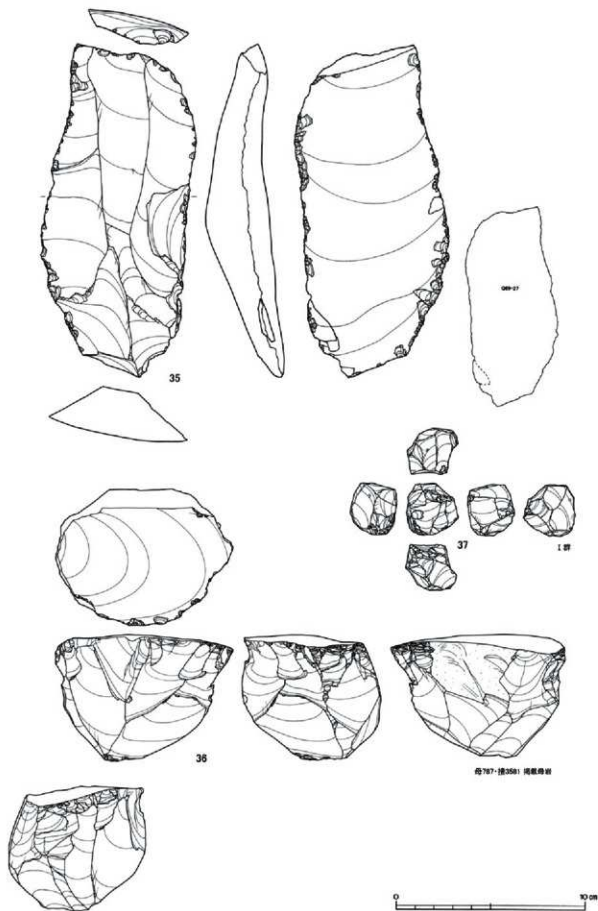
28~35は幅5cm前後の大型石刃である。石材は黒曜石3・4が使用されている。側面側の反りが弱く、直線的なものが主体である。背面に観察される石刃の剥離方向は小型品の28を除き、全て腹面と同方向のもので占められ、打面転移の頻度は少なかったことが考えられる。31は頭部右脇に細かくシャープな線状痕が顕著に認められるが、頭部中央部には観察することが出来ない。34は背面全体に線状痕が分布している。

石核(図Ⅲ-647-36・37、図版311)

石核はⅡ層から8点・8個体が出土し、2個体を図示した。石材は全て黒曜石である。剥離面接合するものは3個体あり、内2個体はF2区に分布する小型舟底形石器群の母岩に接合している。剥離特徴では、①打面と作業面を固定して一定方向に剥離作業を行うもの(36)、②多面・多方向に



図Ⅲ-646 F3区の石器(7) 石刃



図Ⅲ-647 F3区の石器(8) 石刃・石刃核・石核

不規則な剥離作業を行うもの(37)、③作業面を固定し上下もしくは多方向から求心的な剥離作業を行うものがみられる。①には石刃技法の最終段階で幅広の剥離などにより石核化したものが含まれ、小型舟底形石器石器群の4Aiv類石刃母岩のものが2個体みられる。②は白滝I群と判断しており、1個体が出土している。

36は平坦打面に頭部調整を加えるもので、4Aiv類石刃母岩の石核である。裏面には正面側下方から剥離された作業面も認められる。最終段階で加えられた数回の剥片剥離面がヒンジを起こし、作業面上部を潰している。37は白滝I群のサイコロ状石核で、器体は全て作業面で覆われている。

表Ⅲ-19 母岩番号順挿図・図版一覧表

母岩 No.	接合 No.	挿図	図版	番号	掲載単品資料					
					器種等	挿図	図版	番号	遺物番号	
399	1346	第2分冊	Ⅲ 145	88	127・128					
401	1349	第2分冊	Ⅲ 145	81	99・100					
405	1356	第2分冊	Ⅲ 146	84・85	110~119					
406	1364	第2分冊	Ⅲ 146	86・87	120・121					
408	1371	第2分冊	Ⅲ 146	83	107~109					
409	1383	第2分冊	Ⅲ 167	97	132・133					
416	1409	第2分冊	Ⅲ 167	98・99	134~137					
418	1419	第2分冊	Ⅲ 167	96	129・130					
420	1426	第2分冊	Ⅲ 168	97	131					
425	1455	第2分冊	Ⅲ 141	79	90					
	1456			91						
	1457			80	92					
426	1462	第2分冊	Ⅲ 147	87・88	122~125					
	1463			88	126					
430	1589	第2分冊	Ⅲ 47・50	46	76	石核	Ⅲ 46	45	71	V27-1-1
	1590			40	41	43	R27-391他			
				40	41	44	V27-41			
1591	-	-	-	-	-	搔器	Ⅲ 41	42	50	V27-1-2他
431	1604	第2分冊	Ⅲ 74・75	56	105・106	石刃核	Ⅲ 44	44	65	U29-3
						石刃	Ⅲ 43	43	59	U29-111他
						石刃	Ⅲ 43	43	60	U29-271他
						石刃	Ⅲ 43	43	58	U29-395他
						尖頭器	Ⅲ 37	39	38	U29-2他
432	1606	第2分冊	Ⅲ 76~79	57・58	107・108	石刃核	Ⅲ 44	44	66	W28-1-1
433	1609	第2分冊	Ⅲ 51~53	47	78					
	1610			Ⅲ 52~54	48	79				
434	1621	第2分冊	Ⅲ 69~71	53・54	94~101					
435	1626	第2分冊	Ⅲ 89・90	62	118					
436	1629	第2分冊	Ⅲ 65・66	52	91・92	両面調整石器	Ⅲ 40	41	46	V26-29
439	1635	第2分冊	Ⅲ 82・83	59	111	石核	Ⅲ 46	45	73	W27-1
440	1636	第2分冊	Ⅲ 82	59	110	石刃核	Ⅲ 45	45	70	S27-215
441	1639	第2分冊	Ⅲ 54・55	48	80	尖頭器	Ⅲ 36	39	37	R27-392他
442	1642	第2分冊	Ⅲ 55・56	48	81	尖頭器	Ⅲ 35	38	33	T26-83他
443	1643	第2分冊	Ⅲ 56・57	49	82	尖頭器	Ⅲ 36	39	36	R27-272他
447	1649	第2分冊	Ⅲ 59~61	50	86	二次加工ある剥片	Ⅲ 43	43	57	S27-450
	1650			Ⅲ 61	87	尖頭器	Ⅲ 35	38	32	R27-393
448	1659	第2分冊	Ⅲ 62~64	51	88~90	削器	Ⅲ 42	42	55	S27-137
						尖頭器	Ⅲ 35	38	31	S27-1-1
451	1670	第2分冊	Ⅲ 58	49	84					
	1671			85						
452	1675	第2分冊	Ⅲ 83	59	112					
453	1676	第2分冊	Ⅲ 57	49	83					
454	1688	第2分冊	Ⅲ 86・87	61	116	尖頭器	Ⅲ 35	37	29	V28-152
458	1707	第2分冊	Ⅲ 85・86	60	115	石核	Ⅲ 46	45	74	R26-41
459	1716	第2分冊	Ⅲ 72・73	55	102					
	1717			103						
	1721			104						
460	1728	第2分冊	Ⅲ 87・88	61	117	削器	Ⅲ 42	42	53	R27-1-3他
461	1729	第2分冊	Ⅲ 85	60	114	両面調整石器	Ⅲ 40	41	47	S26-184
462	1730	第2分冊	Ⅲ 84	60	113	二次加工ある剥片	Ⅲ 42	42	56	S26-62
463	1731	第2分冊	Ⅲ 80	58	109	石核	Ⅲ 46	45	72	T26-257
464	1732	第2分冊	Ⅲ 90	62	119					
465	1733	第2分冊	Ⅲ 66・67	52	93	石核	Ⅲ 46	45	75	S26-27
467	1795	第2分冊	Ⅲ 111~116	68~70	32~35	両面調整石器	Ⅲ 41	41	48	U28-116
						両面調整石器	Ⅲ 103	64	10	Q33-615

2 遺物

母名 No.	接合 No.	補図	図版	番号	掲載単品資料						
					器種等	補図	図版	番号	遺物番号		
468	1811	第2分冊 Ⅲ	153~155	90・91	69~72	石刃核	Ⅲ	108-109	66	27	S33-1-1
469	1815	第2分冊 Ⅲ	160・161	91・92	75・76						
470	1818	第2分冊 Ⅲ	126・127	74	46						
471	1820	第2分冊 Ⅲ	158・159	92	74						
472	1822	第2分冊 Ⅲ	132・133	76	51~53						
473	1827	第2分冊 Ⅲ	131・132	76	50						
474	1847 1851	第2分冊 Ⅲ	139・140	78	59 60						
475	1854	第2分冊 Ⅲ	161~163	94	77~83						
477	1861	第2分冊 Ⅲ	151・152	89	64~68	石刃核	Ⅲ	104	65	23	S34-1-2
478	1863	第2分冊 Ⅲ	165	95	86						
481	1871	第2分冊 Ⅲ	124・125	74	44・45	石核	Ⅲ	110	67	30	R33-133
483	1875	第2分冊 Ⅲ	117~119	71	36~38	石核	Ⅲ	110	67	29	T33-716
484	1878	第2分冊 Ⅲ	134~138	77・78	54~58						
485	1885	第2分冊 Ⅲ	128~130	75	47~49						
486	1889 1893	第2分冊 Ⅲ	165・166 166	96	87 88・89						
487	1899 60121	第2分冊 Ⅲ	163・164 164	95	84 85	石刃核	Ⅲ	106	66	25	P33-1-1他
489	1901	第2分冊 Ⅲ	120	72	39						
490	1909	第2分冊 Ⅲ	156・157	93	73	石刃核	Ⅲ	108-109	67	28	S34-1-1
491	1911	第2分冊 Ⅲ	123・124	73	43	尖頭器	Ⅲ	102	63	8	Q33-383他
492	1915 1916	第2分冊 Ⅲ	121・122 122	72 73	40 41						
494	2006	第2分冊 Ⅲ	123	73	42						
497	2091	第2分冊 Ⅲ	168	99	138・139						
499	1518	第2分冊 Ⅲ	148	82	105・106						
500	1980	第2分冊 Ⅲ	148	82	101~104						
501	1373 1376	第2分冊 Ⅲ	142・143 144	80・81 80	93・95~98・61 94						
502	1828 1831	第2分冊 Ⅲ	150・151	89	62 63	尖頭器	Ⅲ	102	63	5	Q33-84他
504	2235	第2分冊 Ⅲ	304	166	262・263						
505	2236	第2分冊 Ⅲ	303・304	166	259~261						
506	2238	第2分冊 Ⅲ	305	166	264~268						
507	2239	第2分冊 Ⅲ	219	120	135・136						
508	2240	第2分冊 Ⅲ	221	120	274・275						
510	2242	第2分冊 Ⅲ	220	120	137						
512	2244	第2分冊 Ⅲ	233・234	125	157	石刃 石刃核 石刃 石刃	Ⅲ Ⅲ Ⅲ Ⅲ	192 205 194 193	104 112 105 104	50 105 63 54	L45-20 L46-104 M46-28 O46-35
513	2245	第2分冊 Ⅲ	305・306	167	269	二次加工ある剥片 二次加工ある剥片 二次加工ある剥片 二次加工ある剥片 石核	Ⅲ Ⅲ Ⅲ Ⅲ Ⅲ	190 190 190 190 211	102 102 102 102 116	35 33 34 36 120	N46-4 O46-99 O46-142 O46-165 O47-1-6
514	2246	第2分冊 Ⅲ	223・224	121	139・140						
515	2247	第2分冊 Ⅲ	306	166	270	石核	Ⅲ	211	116	119	Q43-1-1
518	2253	第2分冊 Ⅲ	224・225	121	141~143	舟底形石器 石刃核	Ⅲ Ⅲ	187 202	100 111	7 95	L42-1-2 O43-5
519	2254	第2分冊 Ⅲ	307	167	271	石核	Ⅲ	211	116	123	P43-86

母岩 No.	接合 No.	補図	図版	番号	掲載単品資料						
					器種等	補図	図版	番号	遺物番号		
520	2255	第2分冊	Ⅲ 231・232	123	153・154	石刃核	Ⅲ	203	111	99	P42-62
						石刃	Ⅲ	194	105	67	P43-26 他
521	2256	第2分冊	Ⅲ 232・233	125	155・156	石刃	Ⅲ	192	103	47	P43-129 他
						石刃	Ⅲ	194	105	66	P43-1-1 他
525	2264	第2分冊	Ⅲ 235・236	126	158	石刃	Ⅲ	192	104	51	L45-72
						石刃	Ⅲ	192	104	49	L45-142
528	2150	第2分冊	Ⅲ 237~244	127~130	159~165・277	石刃核	Ⅲ	203	111	100	M45-64
						削器	Ⅲ	190	102	27	K44-6
						削片	Ⅲ	188	100	16	L44-113
						石刃	Ⅲ	201	110	91	L44-148 他
						石刃	Ⅲ	196	107	78	L44-285 他
						削片	Ⅲ	188	100	15	L44-369 他
						削片	Ⅲ	188	100	17	L44-444
528	2150	第2分冊	Ⅲ 237~244	127~130	159~165・277	彫器	Ⅲ	188	100	11	L44-458
						彫器	Ⅲ	187	100	8	L45-1-1
						石刃 + 掻器	Ⅲ	188	101	18	M46-110+P47-1-2
						石刃核	Ⅲ	203	112	101	P47-143 他
						石刃	Ⅲ	191	103	41	M43-245
529	2163	第2分冊	Ⅲ 230・231	124	151・152・276	石刃	Ⅲ	191	102	37	N43-42 他
						石刃	Ⅲ	191	103	39	N43-448 他
						石刃核	Ⅲ	202	111	98	N44-1-2
530	2165	第2分冊	Ⅲ 244・245	130	166・167	石刃	Ⅲ	193	105	61	N46-211
						石刃核	Ⅲ	205	112	106	N46-298
531	2149	第2分冊	Ⅲ 247~253	132~135	172~177	石刃	Ⅲ	200	110	90	L46-28 他
						石刃	Ⅲ	199	109	87	N46-174 他
						石刃	Ⅲ	201	110	92	N47-1-31
533	2152	第2分冊	Ⅲ 226~228	122・123	144~148	石刃	Ⅲ	191	102	38	M43-113 他
						石刃	Ⅲ	191	103	42	M43-134 他
						石刃	Ⅲ	191	103	40	M43-311 他
						石刃	Ⅲ	191	103	44	N43-392 他
534	2173	第2分冊	Ⅲ 255・256	136・137	180~182	石刃核	Ⅲ	208	114	114	Q42-100
						石刃	Ⅲ	200	109	89	Q43-204
						石刃	Ⅲ	200	109	88	P43-1-8 他
535	2171	第2分冊	Ⅲ 257~259	138・139	183~186	石刃	Ⅲ	196	106	75	R42-105 他
						石刃核	Ⅲ	206	113	110	R43-1-1
						縦長剥片	Ⅲ	195	106	69	L44-58
536	2180	第2分冊	Ⅲ 260~264	140~142	187~191	石刃核	Ⅲ	204	112	103	L44-65
						縦長剥片	Ⅲ	201	110	93	L44-66 他
						石刃	Ⅲ	197	108	81	L44-174 他
537	2175	第2分冊	Ⅲ 228・229	123	149・150						
538	2179	第2分冊	Ⅲ 245・246	131	168~171	石刃核	Ⅲ	206	113	108	Q42-42
						石刃	Ⅲ	193	105	60	Q42-309
						石刃	Ⅲ	194	105	64	R42-1-12 他
539	2190	第2分冊	Ⅲ 253・254	137	178・179						
541	2189	第2分冊	Ⅲ 265・266	143・144	192~197						
543	2269	第2分冊	Ⅲ 212~214	117	126・127						
545	2280	第2分冊	Ⅲ 221	120	272・273						
546	2281	第2分冊	Ⅲ 220	120	138						
549	2282	第2分冊	Ⅲ 214~216	118	128~131						
550	2181	第2分冊	Ⅲ 217~219	119	132~134						
551	2196	第2分冊	Ⅲ 308	161	279						
553	2205	第2分冊	Ⅲ 267・268	145	198~201	石核	Ⅲ	210	116	118	R42-251
554	2207	第2分冊	Ⅲ 308	161	280						

2 遺物

母岩 No.	接合 No.	挿入		図版	番号	掲載単品資料				
						器種等	挿入	図版	番号	遺物番号
555	2309	第2分冊	Ⅲ 269~274	146~149	202~216	石刃	Ⅲ 198	109	84	L45-48 他
						石刃	Ⅲ 195	106	72	M45-8
						石刃	Ⅲ 192	104	48	M46-320 他
						石刃	Ⅲ 196	106	74	M46-325
						石刃核	Ⅲ 206	113	109	N46-1-2
556	2214	第2分冊	Ⅲ 275	149	217					
557	2215	第2分冊	Ⅲ 280・281	152	227・228	搔器	Ⅲ 188	101	20	M46-293
						石刃核	Ⅲ 209	115	115	S44-80
558	2211	第2分冊	Ⅲ 276	150	221	石刃	Ⅲ 195	106	71	Q42-272
						石刃	Ⅲ 196	107	76	R42-244
559	2212	第2分冊	Ⅲ 277	151	222~224	石刃	Ⅲ 193	104	55	Q42-81
						石刃核	Ⅲ 205	113	107	Q42-159
						石刃	Ⅲ 193	104	57	Q43-30
560	2216	第2分冊	Ⅲ 309	164	281					
561	2217	第2分冊	Ⅲ 311	165	284・285					
565	2284	第2分冊	Ⅲ 281・282	152	229					
566	2285	第2分冊	Ⅲ 279	151	225・226	石刃核	Ⅲ 207	113	111	R42-48
						石刃	Ⅲ 195	106	70	R42-1-38
567	2286	第2分冊	Ⅲ 311	165	288					
568	2288	第2分冊	Ⅲ 310	165	286					
569	2289	第2分冊	Ⅲ 310	165	287					
571	2292	第2分冊	Ⅲ 282・283	153	230~234					
572	2294	第2分冊	Ⅲ 284・285	153・154	235~237					
573	2295	第2分冊	Ⅲ 286	154	238・239・278	石刃	Ⅲ 191	103	43	L44-43 他
						石刃核	Ⅲ 202	111	97	L44-196 他
						石刃核	Ⅲ 208	114	113	M43-138
574	2296	第2分冊	Ⅲ 287・288	155	240	石刃	Ⅲ 192	103	46	P42-24 他
						石刃	Ⅲ 192	104	53	P43-91 他
						石刃	Ⅲ 194	105	62	Q43-231
						石刃	Ⅲ 199	109	85	R42-193
575	2306	第2分冊	Ⅲ 290~292	156・157	242~244	石刃	Ⅲ 195	106	73	R44-90 他
						石刃核	Ⅲ 209	115	116	S42-34
						石刃	Ⅲ 193	104	56	L44-372
						石刃	Ⅲ 193	104	59	O46-1-26 他
576	2297	第2分冊	Ⅲ 293・294	158	245~247	搔器	Ⅲ 188	101	19	O47-93 他
						石刃	Ⅲ 197	107	79	P42-215 他
						石刃	Ⅲ 194	105	65	Q42-287 他
						石刃核	Ⅲ 204	112	102	Q42-328 他
						石刃	Ⅲ 198	108	83	R43-224
578	2300	第2分冊	Ⅲ 298~301	162・163	252~254					
579	2301	第2分冊	Ⅲ 288・289	155	241	石刃	Ⅲ 198	108	82	N46-41 他
						石刃	Ⅲ 199	109	86	Q42-132 他
580	2308	第2分冊	Ⅲ 309	164	282・283					
581	2057	第2分冊	Ⅲ 302	157	255~257					
582	2312	第2分冊	Ⅲ 312	167	289・290					
583	2399	第3分冊	Ⅲ 371~373	190	225~227	搔器	Ⅲ 189	101	23	S45-1-1
						石刃核	Ⅲ 189	101	23	S45-1-1
584	2401	第3分冊	Ⅲ 372・373	190	228					
584	2408	第3分冊	Ⅲ 374~378	191・192	229~233					
585	2412	第3分冊	Ⅲ 416~422	209~211	279~284・418	尖頭器	Ⅲ 342	171	42	D区ボサ-13
586	2417	第3分冊	Ⅲ 422~424	211・212	285~288	石刃核	Ⅲ 367	188	213	L47-1-1
						石刃	Ⅲ 360	183	187	K48-95
						石刃核	Ⅲ 367	188	212	N48-1-1
587	2419	第3分冊	Ⅲ 387・388	198	242~244					
597	2444	第3分冊	Ⅲ 414	208	416					
598	2445	第3分冊	Ⅲ 424・425	213	289					
599	2446	第3分冊	Ⅲ 430	215	420・421	石刃核	Ⅲ 368	188	214	M48-I-1

母若 No.	接合 No.	補図	図版	番号	掲載単品資料				
					器種等	補図	図版	番号	遺物番号
600	2623	第3分冊	Ⅲ 430	215	422・423				
601	2447	第3分冊	Ⅲ 379・380	193	234~236				
602	2456	第3分冊	Ⅲ 425~427	213・214	290~292	石刃	Ⅲ 359	182	185 N48-1499
603	2461	第3分冊	Ⅲ 389	196	245~247				
604	2465	第3分冊	Ⅲ 414	208	417				
605	2471	第3分冊	Ⅲ 390	196・197	248・249				
606	2472	第3分冊	Ⅲ 427・428	215	293				
615	2507	第3分冊	Ⅲ 411・412	207	275・276				
616	2508	第3分冊	Ⅲ 398・399	199	254~258				
617	2511	第3分冊	Ⅲ 400・401	203・204	259・260				
619	2517	第3分冊	Ⅲ 413	208	277・278				
620	2518	第3分冊	Ⅲ 402・403	205	261~263				
621	2519	第3分冊	Ⅲ 404	199	264				
624	2527	第3分冊	Ⅲ 405	204	265~267				
639	2592	第3分冊	Ⅲ 384~387	195	241				
641	2596	第3分冊	Ⅲ 391	197	250				
642	2597	第3分冊	Ⅲ 428・429	214	294・295・419	石刃	Ⅲ 359	182	186 P48-438
						石刃核	Ⅲ 365	187	209 S48-II-21
643	2601	第3分冊	Ⅲ 410	206	273・274				
644	2602	第3分冊	Ⅲ 392	197	251・252				
655	2801	第3分冊	Ⅲ 408・409	203	270~272				
	2803		-	-	-	-			
656	2814	第3分冊	Ⅲ 380~383	194	237~239	両面調整石器	Ⅲ 345	173	58 M47-262
656	2816	第3分冊	Ⅲ 382・383	195	240	尖頭器	Ⅲ 341	170	35 P48-I-2
657	2820	第3分冊	Ⅲ 393~397	200~202	253				
	2831	第3分冊	Ⅲ 406	206	268	尖頭器	Ⅲ 344	172	51 M47-601
	2832		Ⅲ 407	206	269				
662	2898	第3分冊	Ⅲ 432・433	216	296・297・424	尖頭器	Ⅲ 340	170	33 P50-979
663	2899	第3分冊	Ⅲ 433~435	216	298・299	尖頭器	Ⅲ 343	172	48 P49-883
664	2901	第3分冊	Ⅲ 473	234	354・438・439				
665	2902	第3分冊	Ⅲ 513	250	440				
666	2904	第3分冊	Ⅲ 435~438	217・218	300~304				
667	2905	第3分冊	Ⅲ 439・440	218	305~308				
668	2906	第3分冊	Ⅲ 519	257	407				
669	2910	第3分冊	Ⅲ 474	235	355~357				
670	2911	第3分冊	Ⅲ 475	233	358~360				
671	2912	第3分冊	Ⅲ 476	233	361~363				
672	2913	第3分冊	Ⅲ 513	251	441~443				
673	2915	第3分冊	Ⅲ 477	234	364~366				
674	2916	第3分冊	Ⅲ 513	252	447~449				
	2918	第3分冊	Ⅲ 530	262	470				
	2917					471・472			
676	2920	第3分冊	Ⅲ 478・479	236	367~370				
677	2922	第3分冊	Ⅲ 479・480	235	371~374				
678	2923	第3分冊	Ⅲ 514	251	444~446				
679	2924	第3分冊	Ⅲ 441・442	219	309~312	尖頭器	Ⅲ 343	171	47 R49-384
	2925	第3分冊	Ⅲ 498~500	245	394				
	2926		Ⅲ 499・500	244	395				
681	2927	第3分冊	Ⅲ 443~446	220・221	313~317・425・426				
682	2928	第3分冊	Ⅲ 448・449	222	319~321・427・428				
683	2929	第3分冊	Ⅲ 481	236	375				
684	2930	第3分冊	Ⅲ 517	254	459~461				
685	2932	第3分冊	Ⅲ 514	253	453・454				
686	2933	第3分冊	Ⅲ 514	252	450~452				
687	2934	第3分冊	Ⅲ 482・483	237	376~378				

2 遺物

母岩 No.	接合 No.	補図	図版	番号	掲載単品資料					
					器種等	補図	図版	番号	遺物番号	
688	2935	第3分冊	Ⅲ 450~454	223・224	322~329・429~432					
689	2938	第3分冊	Ⅲ 526~528	261・262	413~415	石核	Ⅲ 369	189	218	Q49-481
690	2939	第3分冊	Ⅲ 515	253	455~457					
691	2940	第3分冊	Ⅲ 529	263	473					
692	2943	第3分冊	Ⅲ 455~458	225・226	330~332					
707	2974	第3分冊	Ⅲ 525・526	259・260	412	石刃	Ⅲ 363	185	203	R49-1582
						石刃	Ⅲ 360	183	188	R49-1611 他
						石刃	Ⅲ 359	182	182	R49-2062
						石刃	Ⅲ 360	183	191	S49-II-143
						石刃	Ⅲ 362	184	197	Q50-759 他
	2975		-	-	-	石刃	Ⅲ 358	182	179	Q49-2486 他
	2976		-	-	-	石刃	Ⅲ 358	182	180	R49-1075 他
708	2977	第3分冊	Ⅲ 523~526	258・259	411	石刃核	Ⅲ 366	187	210	R49-1105
						石刃	Ⅲ 361	184	196	R49-2044
						石刃	Ⅲ 363	185	202	R50-I-12 他
						石刃	Ⅲ 363	185	202	R50-I-12 他
709	2983 2984	第3分冊	Ⅲ 501・502	243	396					
				244	397					
710	2987	第3分冊	Ⅲ 487~490	239・240	383~386					
711	2998	第3分冊	Ⅲ 509・510	250	404					
715	3016	第3分冊	Ⅲ 529	263	474・475					
716	3019	第3分冊	Ⅲ 515	255	462~464					
717	3024 +3025	第3分冊	Ⅲ 511・512	249	406					
718	3035	第3分冊	Ⅲ 516	255	465					
719	3044 3045	第3分冊	Ⅲ 502・503	247	398					
				503	399					
721	3055	第3分冊	Ⅲ 485・486	238	382	尖頭器	Ⅲ 340	170	32	R48-I-6 他
722	3061	第3分冊	Ⅲ 510・511	249	405					
723	3076	第3分冊	Ⅲ 491~493	241	387~389	掻器	Ⅲ 351	177	123	R48-I-2
724	3081	第3分冊	Ⅲ 458~461	226・227	333~337	尖頭器	Ⅲ 344	172	52	N50-2220
725	3082	第3分冊	Ⅲ 530	263	476					
726	3089	第3分冊	Ⅲ 461~463	228	338~340					
727	3090	第3分冊	Ⅲ 494~497	242・243	390~393					
746	3190 3191	第3分冊	Ⅲ 504・506	246	400					
				505・506	245	401				
747	3197 3198	第3分冊	Ⅲ 506~508	248	402					
				507・508	403					
748	3207	第3分冊	Ⅲ 484	237	379~381					
749	3208	第3分冊	Ⅲ 516	256	466	両面調整石器	Ⅲ 346	174	60	N49-1093 他
750	3210	第3分冊	Ⅲ 464・465	229	341~345					
751	3211	第3分冊	Ⅲ 446・447	221	318	尖頭器	Ⅲ 338	168	18	M50-1798 他
752	3216	第3分冊	Ⅲ 516	256	467					
753	3222	第3分冊	Ⅲ 466~468	230	346~348					
754	3225	第3分冊	Ⅲ 517	254	458					
755	3228	第3分冊	Ⅲ 520	257	408					
756	3232	第3分冊	Ⅲ 521・522	260	409・410・469					
757	3233	第3分冊	Ⅲ 468~470	231	349・350・433~435					
758	3234	第3分冊	Ⅲ 471・472	232	351~353・436・437					
759	3237	第3分冊	Ⅲ 517	256	468	尖頭器	Ⅲ 343	172	49	M50-1809
769	3554	第3分冊	Ⅲ 550	268	48	両面調整石器	Ⅲ 544	265	17	L56-1038
770	3559	第3分冊	Ⅲ 549	268	47					
771	3560	第3分冊	Ⅲ 616~618	297・298	126・127・151	石刃	Ⅲ 569	273	54	M64-129 他
						石刃核	Ⅲ 570	273	55	P64-61
						掻器	Ⅲ 568	271	32	M63-42
772	3562	第3分冊	Ⅲ 619~621	299	128・129	石刃核	Ⅲ 570	273	56	P65-47
						削器	Ⅲ 568	271	34	S65-197 他

母岩 No.	接合 No.	補図	図版	番号	掲載単品資料				
					器種等	補図	図版	番号	遺物番号
773	3565	第3分冊 Ⅲ	584・585	281	85-87				
774	3566	第3分冊 Ⅲ	585・586	282	88-90				
775	3567	第3分冊 Ⅲ	596	287	136-138				
776	4020	第3分冊 Ⅲ	574・575	276	71-74				
777	3568	第3分冊 Ⅲ	624	301	133	石刃核	Ⅲ	571	274 57 O66-127
778	3569	第3分冊 Ⅲ	627	305	170-173				
780	3571	第3分冊 Ⅲ	596	288	140-142				
781	3572	第3分冊 Ⅲ	626	303	163-166				
782	3573	第3分冊 Ⅲ	586・587	283	91-92				
783	3577	第3分冊 Ⅲ	626	304・305	167-169				
784	3578	第3分冊 Ⅲ	622・623	300・301	130-132	石刃核	Ⅲ	571	274 58 R66-1-1
785	3580	第3分冊 Ⅲ	627	306	174・175				
787	3581	第3分冊 Ⅲ	600・601	290・291	106・107	石核 舟底形石器	Ⅲ	647	311 36 L67-51 Ⅲ 566 270 24 M66-1-1 他
788	3582	第3分冊 Ⅲ	614・615	296	125	石刃核	Ⅲ	571	274 59 N66-255
789	3583	第3分冊 Ⅲ	612・613	295	122				
790	3584	第3分冊 Ⅲ	601・602	291	108・146・147				
791	3585	第3分冊 Ⅲ	625	301	152				
792	3586	第3分冊 Ⅲ	625	302	153-155				
793	3587	第3分冊 Ⅲ	603	291・292	109・110・148・149	舟底形石器	Ⅲ	565	270 21 L66-5
794	3590	第3分冊 Ⅲ	626	302	156・157				
795	3591	第3分冊 Ⅲ	625	302・303	158-162				
796	3592	第3分冊 Ⅲ	604-608	293・294	111-117	舟底形石器 石刃核 舟底形石器 舟底形石器	Ⅲ	566 270 22 Ⅲ 572 275 64 Ⅲ 567 271 25 Ⅲ 567 271 26	L65-380 他 L66-160 M66-1-3 O66-1-2
797	3593	第3分冊 Ⅲ	576-578	277・278	75-77・135				
798	3594	第3分冊 Ⅲ	596	288	143				
799	3595	第3分冊 Ⅲ	627	306	176・177				
800	3596	第3分冊 Ⅲ	588	282	93-95				
801	3597	第3分冊 Ⅲ	597	287	139				
802	3598	第3分冊 Ⅲ	579-582	279-281	78-81				
803	3601	第3分冊 Ⅲ	589	284	96				
804	3610	第3分冊 Ⅲ	597	289	144・145				
805	3615	第3分冊 Ⅲ	583・584	278	82-84				
848	4022 4023	第3分冊 Ⅲ	590・591	285	97・98 99				
849	4028	第3分冊 Ⅲ	599	290	104・105				
850	4031	第3分冊 Ⅲ	592	284	100				
851	4035 4036	第3分冊 Ⅲ	609・610	292	118 119	舟底形石器	Ⅲ	566	270 23 N66-1-2
852	4037	第3分冊 Ⅲ	610・611	295	120	石刃核	Ⅲ	572	275 63 N66-497
853	4041	第3分冊 Ⅲ	613・614	296	123・124	石刃核	Ⅲ	572	274 60 P67-9
854	4044	第3分冊 Ⅲ	595	286	103	尖頭器 削片 削片	Ⅲ	564 270 13 Ⅲ 599 272 48 Ⅲ 569 272 49	M65-319 N66-1-3 L65-464 他
857	4052	第3分冊 Ⅲ	594・595	286	102	削片 尖頭器 削片	Ⅲ	569 272 51 Ⅲ 564 269 12 Ⅲ 569 272 50	M66-327 O66-1-1 P66-30
858	4065	第3分冊 Ⅲ	611・612	295	121・150	舟底形石器 石刃核	Ⅲ	565 270 19 Ⅲ 573 275 65	O66-1-7 他 P66-1-2
859	4073	第3分冊 Ⅲ	593	285	101				
-	2682	第2分冊 Ⅲ	303	166	258	削片 彫器 削片	Ⅲ	188 100 13 Ⅲ 188 100 12 Ⅲ 188 100 14	N46-85 P47-45 P47-72

(公財) 北海道埋蔵文化財センター調査報告書 第302集

白 滝 遺 跡 群 XIII

遠軽町 旧白滝5遺跡(2)

旭川紋別自動車道遠軽町遠軽地区埋蔵文化財発掘調査業務報告書

平成25年10月31日

編集・発行 公益財団法人 北海道埋蔵文化財センター
〒069-0832 江別市西野幌685番地1
TEL 011(386)3231 FAX 011(386)3238
印 刷 札幌大同印刷株式会社
〒004-0003 札幌市厚別区厚別東3条2丁目1-1
TEL 011(897)9711(代) FAX 011(897)9715
